平成28年度

なごや生物多様性保全活動協議会
活動報告書

平成２９年３月

なごや生物多様性保全活動協議会

目　次

はじめに — 1
なごや生物多様性保全活動協議会について — 2

動物調査と保全対策部会 — 6
水辺の生きもの部会 — 11
生物情報モニタリングデータベース部会 — 16
オオキンケイギク対策部会 — 18
【広報部会】
なごや生きもの一斉調査～セミの抜け殻編～ — 20
【広報部会】
なごや生物多様性サマースクール2016 — 22
定例会 — 24

会員活動支援 — 25
荒池緑地昆虫生息調査（荒池ふるさとクラブ） — 26
里山林における植物相及び植生の質調査（長谷川泰洋・橋本啓史・眞弓浩二） — 27
講演会（名古屋昆虫同好会） — 29
マメナシ剪定講習会（愛知守山自然の会） — 30
東海丘陵要素植物を育む地層の見学会（愛知守山自然の会） — 31

地域活動支援 — 32
牧野ヶ池緑地の保全（牧野ヶ池緑地保全協議会） — 33
才井戸流湧水湿地保全（中志段味の自然を次世代に伝える会） — 34
ヒメボタルの食性調査（大高緑地自然観察会） — 35
細口池の生きもの復活作戦（細口池生きもの復活クラブ） — 36

助成金事業 — 37

会員団体の活動紹介・報告
相生山緑地自然観察会 — 38
「あいちの海」グリーンマップ — 38
愛知守山自然の会 — 39
雨池ホタルの会 — 39
荒池ふるさとクラブ — 40
伊勢・三河湾流域ネットワーク — 40
大高緑地湿地の会 — 41
尾張サンショウウオ研究会 — 41
かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」 — 42
雑木林研究会 — 42
中部蜘蛛懇談会 — 43
なごや外来種を考える会 — 43
「なごや環境大学」実行委員会 — 44
名古屋昆虫同好会 — 44
名古屋自然観察会 — 45
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち — 45
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター — 46
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 — 46
（特非）なごや東山の森づくりの会 — 47
NPO法人　日進野菜塾 — 47
日本カメ自然誌研究会 — 48
日本野鳥の会愛知県支部 — 48
花水緑の会 — 49
隼人池を美しくする会 — 49
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 — 50
三河淡水生物ネットワーク — 50
名東自然観察会 — 51
名東自然倶楽部 — 51
もりづくり会議 — 52
守山リス研究会 — 52
矢田・庄内川をきれいにする会 — 53
山崎川グリーンマップ — 53

はじめに

なごや生物多様性保全活動協議会　会長　眞弓 浩二

なごや生物多様性保全活動協議会の代表に就いて2年目となる2016年度も、何とか無事に過ぎようとしています。

これも協議会活動を力強く進めて頂いた会員各位のご支援のおかげと感謝申し上げます。

なごや生物多様性センターも、マスコミ等に取り上げられる機会も多くなり、徐々に市民への浸透も深まり、今後の展開が注目される存在となってきました。必ずしも歓迎できる報道ばかりとは言えませんが、これを外来生物問題や生物多様性保全に対する市民の関心を高めていくチャンスと捉えていくべきだと考えています。

もとより、多様性センターと協議会は、車の両輪のように協働のパートナーとして機能していかなければ本来の目的を達成することはできません。そして、広く市民になごやの生物多様性について気付き、学んでもらう事、そして多様性保全のために共に活動を進めていく事が、我々協議会の役割といえます。

そこで2016年度、私ども協議会では、3つの事柄について新たな展開を図ってきました。

1つ目は、2015年度より始まった協議会独自の助成金制度の見直しです。最近、なごや生物多様性センターまつりでも活発になってきている中学・高校・大学生による生物多様性に関わる調査・研究・保全活動に対して、その活性化に貢献できるよう、活用の自由度や助成枠の拡大を図りました。また、新たな保全活動を推進する助成枠についても、金額の上限をなくし、使用用途についても外部委託費等の枠を設けるなど、より充実した活動への展開をねらっています。このような助成スキームの更改によって、新たな生物多様性保全活動の発掘と、次世代育成につながる活動の充実を図っていこうと考えています。

2つ目は、新たな部会活動として（仮称）里山・社寺林部会の新設を準備しています。近年、名古屋東部丘陵を中心とした里山林や市内の社寺林では、管理が行き届かず放置され、成長、遷移が進行することによって、かつて自生していた林床植物の衰退やカシノナガキクイムシによる大径コナラ・アベマキの枯死など、未知の里山時代ともいうべき変化を見せています。

これまで、水辺の生きもの部会によって水辺の植物調査や保全活動が進められてきましたが、樹林地の植生環境に関する協議会活動はありませんでした。植物系の活動は、一般市民の興味関心が低い分野ですが、協議会には発足当初より「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」（約30団体）が加盟しており、市内各地で里山保全、湿地保全活動を進めています。これらの市民活動と連携しながら、樹林地植生に関する調査・研究を進め、今後の保全活動に資する指標や知見の集積を図っていきたいと考えています。

3つ目は、（仮称）「なごや生物多様性ガイドブック」の発行です。協議会及び多様性センターは、当地域を代表する生物のスペシャリストや、それぞれの分野に長年取り組んでこられた専門家市民に支えられています。そして皆さんの知識、経験、ノウハウは、まさに当協議会の財産でもあります。これらの知見を一堂に会し、広く市民の皆さんに、なごやの生きものとの付き合い方、外来生物との付き合い方などを解りやすく、楽しく伝えることがこのガイドブックの目的です。

協議会の皆さんの賛同とともに、執筆への協力を頂けることとなり、2018年度の出版に向けて現在総力を挙げて準備を進めているところです。

厳しい財政事情の中、多岐にわたる協議会活動を充実、普及させていくには難しい状況もありますが、幹事の皆さんをはじめ各部会活動を支えて頂いている皆さん、個人会員、団体会員の皆さん、市民調査員の皆さんの力を結集して、2017年度も前進していけることを願っています。

今後とも、市民の皆さんのご理解、ご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10 開催決定を契機に、平成 20 年度から 3 年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成 23 年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成 23 年 5 月 15 日に設立しました。

協議会の設置目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成 23 ～ 25 年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成 26 年度の活動は、一般財団法人セブン－イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成 27 年度以降の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が平成 28 年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシッピアカミミガメ・園芸スイレン・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路・名古屋城などにおける生物調査と外来種防除、アンケートによるウシガエル調査を行いました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7 ～ 8 月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール 2016」を、8 月下旬には「なごや生きもの一斉調査 2016」としてセミの抜け殻の調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、平成 29 年 4 月 29 日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

協議会は、平成 29 年 3 月末現在、22 の個人会員、37 の団体会員、名古屋市で構成しています。1 年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

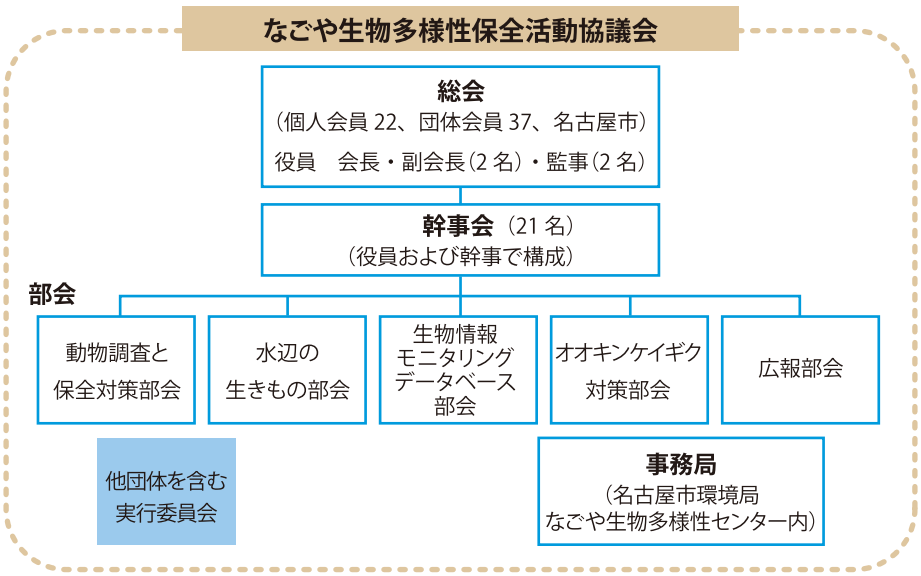
また、役員（会長・副会長 2 人・監事 2 人）と幹事（16 人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへご参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。ご登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（平成 29 年 3 月 16 日現在・登録者数 766 名）

なごや生物多様性保全活動協議会について

平成28年度協議会の組織・構成



部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水辺の生きもの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- オオキンケイギク対策部会
- 広報部会

幹事一覧

（平成 29 年 3 月末現在・敬称略）

氏　名	所　属　等	備　考
石原　則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
梅本　洋子	花水緑の会	
大塚　徹	市内外来種及びため池調査	
大沼　淳一	水質	
大矢　美紀	山崎川グリーンマップ	
小木原　吏香	なごや環境大学実行委員会	監　事
小菅　崇之	水生植物	
柴田　良成	中部蜘蛛懇談会	
鷲見　順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会（なごやの森づくりパートナーシップ連絡会）	
瀧川　正子	（特非）なごや東山の森づくりの会	
津田　美子	名古屋市立長良中学校	
新實　豊	日本野鳥の会愛知県支部	
野中　賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本　啓史	名城大学農学部生物環境科学科助教	
堀田　守	なごやの森づくりパートナーシップ連絡会	監　事
間野　隆裕	名古屋昆虫同好会	副会長
眞弓　浩二	雑木林研究会	会　長
安田　和代	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	
矢部　隆	日本カメ自然誌研究会	副会長
榊原　靖	名古屋市環境科学調査センター主任研究員	
後藤　仁美	名古屋市環境局環境企画部主幹（生物多様性推進担当）	

会員一覧

（平成 29 年 3 月末現在・敬称略）

団体会員

氏　名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでら monzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人　環境市民　東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
中部蜘蛛懇談会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
名古屋昆虫同好会
名古屋自然観察会(愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
（特非）なごや東山の森づくりの会
NPO法人　日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人　藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

個人会員

氏　名
飯尾　俊介
伊東　英幸
御池　俊輔
太田　貴大
大塚　徹
大沼　淳一
川瀬　基弘
小菅　崇之
澤村　壽
髙木　順夫
高山　博好
津田　智
津田　美子
土山　ふみ
研谷　厚
富田　啓介
橋本　啓史
伴　知幾
松沢　孝晋
村上　健太郎
守谷　茂樹
森山　昭彦

名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

通常総会の開催

開催日	主　な　内　容
4 月 29 日	1　平成２７年度事業報告について 2　平成２７年度決算報告について 3　平成２７年度会計監査報告について 4　平成２８年度役員選任について 5　平成２８年度事業計画（案）について 6　平成２８年度収支予算（案）について

なごや生物多様性保全活動協議会について

幹事会の開催

回	開催日	主　な　内　容
第１回	５月 26 日	１　平成２８年度幹事について ２　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 (2) オオキンケイギク対策部会 ３　会員活動支援・地域活動支援について
第２回	６月 23 日	１　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 (2) オオキンケイギク対策部会 (3) 広報部会 ２　地域活動支援について
第３回	７月 28 日	１　各部会報告等 (1) 動物調査と保全対策部会 (2) 水辺の生きもの部会 (3) 生物情報モニタリングデータベース部会 (4) 広報部会 ２　会員活動支援について
第４回	８月 25 日	１　地域活動支援について ２「なごや生物多様性ガイドブック（仮称）」について
第５回	９月 28 日	１　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 ２「なごや生物多様性ガイドブック（仮称）」について
第６回	10 月 27 日	１　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 (2) 生物情報モニタリングデータベース部会 ２「なごや生物多様性ガイドブック（仮称）」について ３　平成２９年度の一斉調査について ４　平成２９年度の部会事業について
第７回	11 月 24 日	１　各部会報告等 (1) 生物情報モニタリングデータベース部会 (2) オオキンケイギク対策部会 (3) 新規部会の立ち上げについて ２　会員活動支援について ３「なごや生物多様性ガイドブック（仮称）」について ４　平成２９年度なごや生物多様性保全活動協議会助成金について
第８回	12 月 22 日	１　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 (2) オオキンケイギク対策部会 (3) 生物情報モニタリングデータベース部会 (4) 広報部会 (5) 新規部会について (6) 動物調査と保全対策部会 ２「なごや生物多様性ガイドブック（仮称）」について
第９回	１月 26 日	１　各部会報告等 (1) 水辺の生きもの部会 (2) 広報部会 (3) オオキンケイギク対策部会 (4) 里山・社寺林部会（仮称）について
第 10 回	２月 23 日	１　各部会報告等・平成２９年度事業計画（案）・収支予算（案）について (1) 動物調査と保全対策部会 (2) 水辺の生きもの部会 (3) 生物情報モニタリングデータベース部会 (4) オオキンケイギク対策部会 (5) 里山・社寺林部会（仮称） (6) 広報部会 (7) 支援事業 (8) 助成金事業 (9) 予算案

動物調査と保全対策部会

なごや生物多様性センター　野呂 達哉

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体、市民調査員など）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境の特性を明らかにする調査を行っている。また、調査で採集、捕獲された生物や駆除等で捕獲された生物について、計測や解剖、標本化を行い、資料を蓄積している。これらの結果や資料を基に外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施する。

その他、活動内容や調査結果を市民に伝える啓発活動、展示、環境学習、大学生の卒業論文等にも協力している。

平成28年度の主な活動

- カメ類の生息分布調査
- ニホンイシガメの保全対策
- アカミミガメの防除対策
- センサーカメラによる哺乳類の生息分布調査
- コウモリ類の生息分布調査
- アライグマの防除対策
- 哺乳類標本の作製と分析
- 環境学習やセンターまつり等への協力

平成28年度の活動記録

● アカミミガメの防除活動

内容　環境省アカミミガメ対策推進プロジェクトのアカミミガメ防除モデル作成のための捕獲調査を実施した。

場所　東山新池、隼人池、塚ノ杁池、水広下池

連携　環境省、自然環境研究センター、名古屋コミュニケーションアート専門学校、隼人池公園特定愛護会

図1．篭罠の設置（水広下池）

● 浮島型罠によるアカミミガメの防除活動

内容　浮島型罠によるアカミミガメの捕獲を実施した。

場所　山崎川

連携　山崎川グリーンマップ

● アカミミガメの産卵巣および孵化幼体の性比に関する調査研究

内容　アカミミガメの産卵巣を探索し、温度計測用データロガー設置した。孵化した幼体を解剖、性別を確認し、野外での温度依存型性決定を確認した。また、矢田川でアカミミガメの幼体を採集し、性比を確認した。

場所　塚ノ杁池、デッチョ池、竜巻池、堀川、矢田川

連携　名城大学農学部環境動物学研究室

動物調査と保全対策部会

● ニホンイシガメの保全対策

内容　ニホンイシガメのオスがほとんど見つからない隼人池において捕獲したメスと同水系の山崎川で捕獲したオスを飼育下で交配させる実験を開始した。

場所　隼人池、山崎川、なごや生物多様性センター

連携　名城大学野生動物生態研究会

図 2.　ニホンイシガメの交配実験

● センサーカメラによる哺乳類調査

内容　各調査地域にセンサーカメラを設置し、哺乳類の生息分布状況を調査した。

場所　東谷山、小幡緑地東園、菊武学園キクタケスポーツヒルズ、愛知カンツリー倶楽部、猪高緑地、大高緑地、東山動植物園、東山公園南部

連携　金城学院大学小野研究室、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室、名東自然観察会、花水緑の会

● コウモリ類調査

内容　音声を録音、分析することでコウモリ類の生息分布調査を行った。名古屋城ではオヒキコウモリのねぐらを探すための目視調査を行った。

場所　熱田神宮、牧野ヶ池緑地、大高緑地、名古屋城、名城公園

協力　コウモリの会（名古屋城のみ）

図 3.　オヒキコウモリのねぐらを探す（名古屋城）

● アライグマなど中型哺乳類の捕獲調査

内容　アライグマ、ハクビシン、シベリアイタチなど外来哺乳類を調査捕獲した。大高緑地、小幡緑地では箱罠の見回りを保全団体が実施した。

場所　東谷山、小幡緑地、八竜湿地、二ツ池、雨池、大高緑地

連携　花水緑の会（大高緑地）、愛知守山自然の会（小幡緑地）

● カヤネズミ調査

内容　カヤネズミの営巣地で営巣場所、営巣数などを調査した。また、いくつかの巣については繁殖時期の確認を行った。

場所　庄内川河川敷（中〜下流域）

日程　名城大学農学部環境動物学研究室

● 中型哺乳類の解剖実習

内容　防除捕獲された動物を材料として解剖実習を実施した。

場所　なごや生物多様性センター作業室

日程　名城大学野生動物生態研究会

● その他

○ 環境学習への協力

対象　八事小学校、南山大学付属小学校、山崎川グリーンマップ

場所　隼人池、山崎川

協力　名古屋コミュニケーションアート専門学校(山崎川)

○ 生体および標本展示

内容　なごや生物多様性センターまつりでカメ類などの生体および哺乳類の頭骨標本を展示、解説した。

協力　名城大学野生動物生態研究会、名古屋コミュニケーションアート専門学校、日本カメ自然誌研究会

○ 発表

内容　第 18 回日本カメ会議口頭発表

場所　石川県いしかわ動物園

○ 標本提供

内容　Buruli 潰瘍の感染源探索のため、捕獲したアカミミガメを愛知県立大学看護学部に検体として提供した。

図 5. なごや生物多様性センターまつりでの標本展示

結果と今後について

調査結果の詳細や今後の予定については動物部会の報告書に掲載する。

部会員 鬼頭 保さんへの追悼文

● 鬼頭さんが残してくれたもの（野呂 達哉）

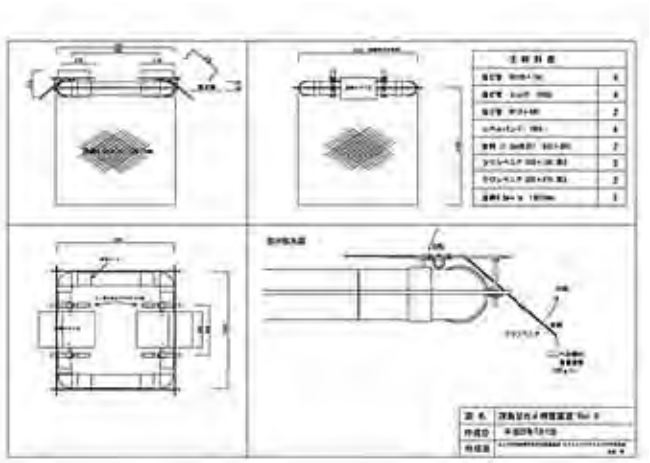
長年、私たちの生きもの調査活動を支えてくださった鬼頭保さんが、2016年6月8日に永眠されました。思い返せば2007年に行われた東山新池での生きもの調査や池干しをはじめ、様々な調査活動、イベントなどで長年にわたってご尽力くださいました。

最近ではアカミミガメ捕獲のための浮島型罠の設計と制作を中心となって手掛けていただき、アカミミガメの大量捕獲にも成功しました。この捕獲罠は全国展開し、センター、協議会の名前も一躍有名になりました。昨年9月には NHKの教育番組である「ピタゴラスイッチ」でもこの浮島型罠が取り上げられました。

ただ、この浮島型罠も一昼夜でできたものではなく、鬼頭さんとその良き相棒である研谷厚さん、部会メンバーが様々な試行錯誤をした上で完成させたものです。

2011年に作製した最初の試作機では2個体しか捕れませんでした。それであきらめるでもなく、鬼頭さんは新たな設計図を作ってくださり、研谷さんと共に本格的な製作に乗り出しました。

浮島型罠を設置する鬼頭さん（鶴舞公園竜ヶ池）



鬼頭さんが作成した浮島型罠の設計図

鬼頭さんと研谷さんが作製した浮島型罠の数々

浮島型罠を製作中の鬼頭さん（右）と研谷さん（左）

浮島型罠の様子を見る鬼頭さん（左）と研谷さん（右）

そして罠が完成したものの、罠のシーソー部分を本体に連結する金具をつたってカメが逃げるという憂き目にあいました。これは、鬼頭さん自身が池に仕掛けた罠を一日中観察していて分かったことです。それを受けた鬼頭・研谷チームは、この金具にカメが足を乗せられないように板を取り付け、最終型が完成しました。これが大成功し、東山新池ではなんと 171 個体ものアカミミガメを捕獲することができました。

その後、鬼頭さんとは浮島型罠の改良型で、一定の時間ごとに罠のシーソー部分が起動しカメが罠に落ちるというソーラーパネルを使ったタイマー式の浮島型罠も作製しました。これはあまりうまく作動しなかったため、もう少し改良する必要があると次の展開を考えていたところでした。

少し前から足や腰の痛みがひどいと聞いていました。2015 年夏頃には環境省が進めるアカミミガメ対策推進プロジェクトで当時の環境副大臣が名古屋市内のため池を視察にみえた際、事前の罠設置や当日の浮島型罠の紹介などを鬼頭さんに手伝っていただきました。その時も辛そうでしたが、それ以降はなかなか調査活動に参加できず、残念な思いをされていました。それでも、調査のある際には、杖をつきながら様子を見に来られていました。また、様々な発表の場にも足をのばしていただきました。2016 年 2 月に静岡大学で開催された第 17 回日本カメ会議にも、奥様である洋子さんとご一緒に足を運んでいただきました。鬼頭さんは生きもの調査だけではなく、このような発表の場にもまめに足を運ん

でくれました。

鬼頭さんのアイディアやこつこつと物を作っていく姿勢にはいつも感銘を受けるとともに多くのことを学ばせていただきました。また、調査道具の清掃や整理など嫌な顔一つ見せず、いつも淡々と作業をされていました。これらのことは一緒に活動してきた部会員や調査員、学生たちに大きな影響を与えてくれたと思います。

ここではまだまだ紹介しきれないほどたくさんの思い出があります。鬼頭さんが私たちに残してくれたものは、私たちの活動にこれからも大きな励みを与えてくれるものと思います。

鬼頭さんありがとうございました！

● 鬼頭さんとのおもいで（石原 則義）

鬼頭さんからは、竹のこと、間伐の仕方、カブトムシの幼虫のことなど様々なことを学びました。ご夫婦とも自然観察指導員ということもあって、名古屋や愛知の自然観察会での研修会でご一緒することが多かったです。なごやの森づくりパートナーシップ連絡会の役員を長い間やってこられました。役員をやめる時に、私に声をかけられ、「石原さん、無理したらだめよ！」という言葉が今でも心に深く残っています。鬼頭さん。今まで本当にありがとうございました。

● 鬼頭さん、ありがとうございました（矢部 隆）

Cop10 開催の数年前から、愛知県あるいは名古屋市における自然史系博物館の必要性を議論する有志市民の勉強会が催されるようになり、鬼頭さんもずっと参加されていました。穏和で物静かではありましたが、言うべきことはちゃんと主張されていました。その勉強会が 2011 年の「なごや生物多様性センター」の設立に繋がっていったわけです。また 2008 年から 2010 年まで活動した「名古屋ため池生物多様性保全協議会」では、ため池の池干しによる生物調査と外来種駆除にもスタッフとして積極的にかかわっていただきました。奥様の洋子さんと、時にはラブラブのペアルックで現場に駆けつけていただいたことは、ほほえましい情景として心に残っています。ため池協議会の後続の「なごや生物多様性保全活動協議会」では、当時のアカミミガメ部会でも活躍され、浮島型罠の創意工夫で実用新案を取得されたのもすばらしいお仕事でした。鬼頭さん、お亡くなりになるのは早過ぎましたが、自然の中のどこかで見守ってくれているかもしれませんね。鬼頭さんに対して恥ずかしくないように、われわれ後輩は自然や生き物に関する活動をしっかりと続けていきますね。

標識したカメを池に戻す鬼頭さん（明徳池）

水辺の生きもの部会

水辺の生きもの部会 部会長・環境科学調査センター　榊原 靖 ／なごや生物多様性センター　寺本 匡寛

はじめに

水辺の生きもの部会では、名古屋市およびその近郊にある水域（周辺域を含む）に生息・生育する水辺の生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で分布調査、生息・生育環境調査を行っています。また、環境教育や次世代育成にも力を入れ、体験型の講座なども行っています。さらに、今年度から水生植物部会と合併して規模、活動内容を拡大して行ってきました。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することで生物多様性への寄与や保全に繋げています。

平成28年度の活動

- 池干しモニタリング調査
- 名古屋城水堀における外来種対策
- ヒキガエルアンケート調査の取りまとめ
- ウシガエルアンケート調査
- 名古屋市およびその近郊の水田棲カエル類の分布調査
- カワバタモロコの保護と生体標本の維持管理
- 猫ヶ洞池におけるヌマガイの保護
- 水田・水路およびその周辺の生物調査
- 園芸スイレン除去の普及啓発
- 東山の水田における水田雑草調査
- 名古屋城におけるオニバスをはじめとした植物相調査
- スキルアップ講座

平成28年度の活動記録

● 池干しモニタリング調査

過去に池干しを実施した池やこれから行う可能性のある池についてモニタリング調査を実施しました。

○ 茶屋ヶ坂池

平成 25 年に池干しが実施されてから、3 度目となるモニタリング調査を実施しました。定量調査と定性調査を実施し、定性調査は市民調査員と協働で行いました。

日時　9 月 20 日、10 月 20 日

協働　市民調査員

図 1. 市民調査員と協働で行う定性調査の様子

○ 滝ノ水北池

池干しが行われる可能性があるため、池干し前の生きものの生息状況を把握する目的で定量調査と定性調査を行いました。

日時　5 月 18 日、9 月 18 日

協働　滝の水緑地の里山と湿地を育てる会

○ 東ノ池

平成 27 年 11 月に池干しが行われ、外来種を取り除きました。その効果を把握するため、池周辺の植物相調査と植生図作図調査も併せて行いました。

日時　9 月 20 日、10 月 23 日

協働　名城大学農学部の学生、名城大学 OB

● 名古屋城水堀における外来種対策

名古屋城水堀に生息する水辺の生きものの基礎資料とするとともに、確認されている外来種を取り除くことで在来種の保全に繋げることを目的に、目撃情報を収集し生息確認調査を行った上で、駆除対策を検討し実施しました。本活動は、アリゲーター

ガーに注目が集まり、多くのテレビや新聞・雑誌に取り上げられることとなり問い合わせが殺到しました。その注目度の高さからアリゲーターガーの捕獲は、今後、管理者である名古屋城総合事務所（名古屋市）が主体となり責任をもって行うこととなりました。これまでの経験や有識者へのヒアリングから捕獲方法が分かってきたところで、本活動での捕獲はできなくなってしまいました。しかし、結果的に行政を動かしたこと、ペットとして飼っているものは、責任を持って最後まで飼育して貰うように多くのメディアを通して発信できたことは意義のあることだったと思います。

日時　6月9日～7月3日

協働　名城大学農学部の学生、名城大学OB、元漁師

● ヒキガエルアンケート調査の取りまとめ

平成27年6月から平成28年7月末まで行ったヒキガエルアンケート調査を、10月27日に開催された第19回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC19）において『名古屋市におけるアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* の分布の変遷』としてポスター発表しました。このポスターは以下のURLより閲覧頂けます。

URL　https://www.biodic.go.jp/relatedinst/19th/poster.html

日時　通年

● ウシガエルアンケート調査

アズマヒキガエルが名古屋市内で激減している要因の一つと考えられるウシガエルについて、アンケートを作成し調査しました。

調査は、アンケートをなごや生物多様性保全活動協議会 Web サイト上に公開し、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員にメールで案内しました。さらに、配布用に5,000枚印刷し、名古屋市図書館（21）、区役所（16）、支所（6）、児童館（16）、保健所（16）、生涯学習センター（16）、市民情報センター、名古屋市都市センター、鯱城学園、環境科学調査センター、名古屋市環境学習センターに配架しました。さらに市内の社寺仏閣905件に依頼文、返信用封筒、ヒキガエルアンケートのポスター発表資料をチラシにして郵送しました。また、定例会やなごや生物多様性センターまつりでアンケートへの協力をお願いしました。さらに、山崎川グリーンマップには、地域住民に積極的にアンケート調査に協力して頂きました。アンケートは以下のURLより閲覧頂けます。

URL　http://www.bdnagoya.jp/introduction/activities/kaeru.html

日時　通年

協働　山崎川グリーンマップ、名城大学の学生、名城大学OB

● 名古屋市およびその近郊の水田棲カエル類の分布調査

名古屋市内における水田棲カエル類の分布を明らかにすることを目的に、4月に1度現地確認とデモンストレーションを行い名古屋市およびその近郊の8市3町から100地点を選定し、各地点で3分間の録音を5月と6月の2度行いました。録音は日没後の19:30～0：30に行い、湛水状況と時刻を記録し、ある程度鳴き声による種同定が可能な場合には、種名を記録しました。録音記録をスピーカーで再生し、3分間の中で確実な声が、1回でも聞こえた種について、当該地点で分布ありとしました。録音時に記録した種であっても、録音データ内で鳴き声を確認できない場合は除外しました。鳴き声以外の分布確認は積極的に行いませんでしたが、その地点において鳴き声が未確認の種が調査中に偶然目撃され、写真の撮影や捕獲できた場合にはその種の該当する地点での分布も記録に加えました。鳴き声からニホンアマガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、ウシガエルの7種が確認さ

れました。本調査により、名古屋市内の水田棲カエル類の分布状況を把握することができたと考えられます。

日時　4月21日、5月18日～20日、5月22日～24日、6月15日、6月17～18日、6月20～21日、12月24日～25日

協働　名城大学の学生

図2. なごやで確認されたツチガエル

● カワバタモロコの保護と生体標本の維持・管理

千音寺区画整備事業によって、生息場所を失ったカワバタモロコを保護しています。また、部会活動で捕獲された生きものの一部を生体標本として一時的に維持・管理を行っています。これらを学生と協働で行うことで、①学生に対して生物調査の機会を提供し、調査の目的、方法、生物の識別などを研修する機会としてもらい、ノウハウの蓄積、スキルアップを図ります。②捕獲した生きものの生体標本の維持管理や、各種の生きものの解説文の作成作業を通じて、生きものの生態を学び、身近な自然環境の現状を理解し、課題を見出し、解決策を模索するといった実践的なプロセスを体験してもらいます。③なごや生物多様性センターまつりの場で、広く市民に対して、生体標本の解説を行うことで自らの理解の進化を促します。これらの活動体験を通して、学生たちが、将来の『なごや』の生物多様性保全をリードしていく人材として成長することを期待するものです。実際に、植田川での生物調査やオニバスの植え替えなど生体標本の維持管理、なごや生物多様性センターまつりで、生きものの解説文をつくり、来場者に対して生きものの解説を行ってもらいました。また、カワバタモロコの繁殖に取り組もうと、碧南海浜水族館に視察に伺いました。

日時　通年

協働　名城大学野生動物生態研究会

● 猫ヶ洞池におけるヌマガイの保護

猫ヶ洞池には絶滅危惧種のヌマガイ（名古屋市絶滅危惧IB類）が生息しています。本池から山崎川に排出される千種台川の暗渠の点検作業にともない、平成28年1月4日に水位が下げられました。そのため、1月27日に一時的に干出した部分に生息するヌマガイ120個体を捕獲し水深の深い場所に移動しまた。点検作業が終わり、十分に水位が回復したので、5月12日に保護したヌマガイの放流を行いました。保護したヌマガイのうち37個体が死亡しており、生存率は69.2%でした。

日時　5月12日

● 水田・水路およびその周辺の生物調査

中川区富田町千音寺地区に位置する宮田用水とそれに隣接する戸田川を平成27年度に調査を行いました。環境調査として平成27年6月設置した水温ロガーを1年後に回収を行いました。今後は、これらのデータを基に解析を行っていく予定です。また、千音寺区画整備事業でマルタニシ（名古屋市絶滅危惧IA類）が生息する休耕田が潰されることが分かり、緊急的にマルタニシの保護を行いましが、既に重機が入っていたことと、時期が遅く土の中に潜っており、ほとんど捕獲することができませんでした。

日時　6月13日、11月25日

協働　名城大学の学生

● 園芸スイレン除去の普及啓発

水生植物部会（今年度から水辺の生きもの部会と合併）が園芸スイレンの除去活動を行っていた千種区東山新池において普及啓発活動を行いました。本池において、除去活動報告書「きれいなスイレンで困っています…」を用いて、実物を使った園芸スイレンの見分け方、園芸スイレンは葉の出るタイミングが早く、着実に水面を陣取ってしまうなど生態の解説を行いました。また、実際に池に入っての園芸スイレンの除去を体験して頂きました。なお、除去活動報告書「きれいなスイレンで困っています…」は以下の URL より閲覧頂けます。

URL https://www.bdnagoya.jp/calendar/pdf/suiren_boujo.pdf

日時 10 月 4 日

協働 なごや東山の森づくりの会、市民調査員、名城大学の学生

● 東山の水田における水田雑草調査

図 3. トリゲモ類の勉強会

東山の森の「くらしの森」には、平成 21 年に造成された 3 面に分かれた約 480 ㎡の水田があります。この水田において平成 27 年度に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認されました。トリゲモ類とその他の植物も合わせて調査を行ったところ昨年と同様にトリゲモ類は変らず確認することができました。稲作は除草剤や農薬を使わずにこれまで通り行われていました。今後も引き続き変遷を調べる予定です。

日時 9 月 14 日

協働 なごや東山の森づくりの会

● 名古屋城におけるオニバスをはじめとした植物相調査

平成 24 年 11 月に 20 年ぶりにオニバスが確認されました。オニバス以外にも過去には、クロモ・トチカガミ・ヒシ・ヒメビシ・ガガブタなどの水草が確認されていましたが、現在はその多くが見ることができません。また、近年、名古屋城水堀に生育する植物相についての報告がみられません。そのため、オニバスをはじめ現状を把握する目的で、名古屋城水堀のヨシが繁茂する北東側において植物相調査を行いました。その結果、「ネイチャーガイド日本の水草」に掲載されている植物では、ニシノオオアカウキクサ、オニバス、アオウキクサ、オオカナダモ、エビモ、ヤナギモ、ヤナギタデ、イ、コゴメイ、ヨシ、マコモ、ハス（名古屋白）の 13 種の他、合計で 67 種の植物を確認することができました。

昨年の 9 月には 1m を超えるオニバスが確認されていましたが、本年度は 6 月と 7 月に発芽直後と思われる小さな浮葉を確認できましたが、残念ながら 10 月にオニバスを確認することができませんでした。

日時 6 月 10 日、7 月 10 日、10 月 4 日

協働 名城大学野生動物生態研究会

図 4. 確認されたオニバスの浮葉

水辺の生きもの部会

● スキルアップ講座

なごや生物多様性保全活動協議会員と市民調査員のスキルアップを目的に講座を開催しました。

○ 地曳き網体験講座

池干しで地曳き網を用いて調査を行いますが、扱える人材が不足していることから、地曳き網の構造や扱い方を勉強してから、実際になごや生物多様性センター近くの植田川に入って体験して貰いました。本講座の参加者が、今後の池干しに参加して頂くことを期待しています。

日時　11 月 13 日
講師　浅香智也、鳥居亮一
協働　名城大学の学生、名城大学 OB
参加者　市民調査員

図 4.　植田川における地曳き網体験の様子

○ ヤゴ同定講座

平成 26 年に同様の講座を開きましたが、好評だったため、第 2 回目となるヤゴ同定講座を開催しました。実際に検索表と顕微鏡を用いてトンボのヤゴの同定に挑戦して頂きました。

日時　11 月 18 日
講師　榊原靖、岡村祐里子
参加者　なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員等
協力　名古屋市環境学習センター

○ 定例会での報告

名古屋市内における水田棲カエル類の分布調査の結果速報を定例会で報告し、名古屋市とその近郊のカエル類の状況について知って頂きました。

日時　2 月 21 日
講師　寺本匡寛
参加者　なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員等

● その他普及啓発

テレビ取材（多数）、新聞の取材（朝日新聞、中日新聞、読売新聞など多数）、雑誌の取材（月刊住職 2016 年 12 月号 お寺の仏花スイレンが危ないって本当か」）、研究協力（野田・角野（2016）外来水生植物オオバナイトタヌキモ *Utricularia gibba* L. の日本における野生化の現状

● 部会の開催

今年度は、5 回の部会を開催しました。

日時　4 月 18 日、8 月 9 日、10 月 13 日、12 月 2 日、2 月 3 日

今後について

池干しモニタリング調査など継続調査が必要なものは引き続き行います。また、新しいテーマや、調査を基に課題が見つかったものについても調査を行います。また、これまでにデータの蓄積があるものは取りまとめ、知見を広く一般に公開し、生物多様性保全への寄与を図るとともに、積極的に、協働調査、スキルアップ講座など普及啓発を行っていく予定です。活動の内容や趣旨に賛同して頂けて一緒に活動しようという意欲のある方の参加を随時求めていますので気軽にお問い合わせ下さい。

生物情報モニタリングデータベース部会

生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部　橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成 23 年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25 種の生物の分布情報の収集と 6 種の分布図の発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html

平成28年度の活動記録

● 部会の開催

今年度は 2 回の部会を開催した。

● 生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは、今年度からウシガエル 1 種追加し、表 1 に示す 25 種類の動植物である。また、協議会会員と市民調査員へメールでその時期の注目種をお知らせし、情報提供を呼びかけた。

今年度は（平成 29 年 2 月 24 日までに）、54 件の情報が寄せられた。昨年度の 87 件に比べて大きく減少したことは残念であった。種別ではツバメの 13 件が最多であった。

なお、寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

表 1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシッピアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス（アマゴ）
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン（園芸スイレン）

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

協議会で行った生物調査の結果をデータベースに登録するため、データの整理や標本目録の作成を進めた。また、分類群によっては作成の遅れている種のマスターデータの作成に向けての検討や資料の収集・購入を進めた。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を公開している。現在公開しているのは、オオキンケイギク、外来スイレン、ヌートリア、ソウシチョウ、ツバメ、ミシシッピアカミミガメの計 6 種である。

なお、ログインすることで、管理者はシステムに

登録されている全ての種について、利用者（研究者等）は希少種を除く種について、このシステムを利用して閲覧することが出来る。

図 1. なごや生物情報閲覧システムでツバメの分布（確認）状況を表示した時の例

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、今年度より写真・フィルムのデジタルデータ化を開始した。まずはポジフィルムを効率的にデジタルデータ化する方法を検討した。その結果、ライトボックス上に置いたスライド（マウントされたポジフィルム）を、マクロレンズを装着した一眼レフデジタルカメラで撮影する方法をとることになった。現在、寄贈された写真・フィルムの撮影対象物を確認し、デジタルデータ化する作業を少しずつ進めているところである。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

外来植物対策等を実施中の緑地・ため池等を対象に、植生の経年変化を記録に残すため、ドローンによる空撮を行う事業を今年度から開始した。対象地は園芸スイレンが分布を広げている猪高緑地内の塚ノ杁池として、10 月下旬に業者に委託してドローンで空撮を行った。複数枚に分割して撮影された写真を合成して池全体が 1 枚に収まったオルソ画像（垂直写真）にした。前年度も部会活動とは別に同時期に当地のドローン撮影をしており、比較することができる。詳細な検討は、今後、水辺の生きもの部会とも連携して行っていきたいが、園芸スイレンの分布は昨年度に比べて拡大したということはなく、別の外来水草であるオオバナイトタヌキモが大繁茂して、むしろ園芸スイレンは衰退しているような状況となっている。

図 2. 2016 年 10 月下旬にドローンで撮影された写真から作成した塚ノ杁池のオルソ画像

今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信を行っていく他に、今年度から開始した 2 つの活動を継続して進めていくこととなった。

市民からの生物情報の提供数が伸び悩んでいることから、呼びかけ方法を再考していきたい。

また、今年度の一斉調査で収集されたセミ類の分布図も、早期に「なごや生物情報閲覧システム」を介して公開できるようにしていきたい。

なお、ドローンによる空撮の対象地は、もう 1 年、塚ノ杁池として、10 月下旬ごろに撮影を予定している。

オオキンケイギク対策部会

オオキンケイギク対策部会 部会長　野中 賢輔

オオキンケイギクとは

オオキンケイギク（ 学名 ：*Coreopsis lanceolata*）とは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは 30 ～ 70cm、毎年 5 月～ 7 月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。明治時代に輸入され、戦後は緑化工事に多く使用されました。ところが繁殖力が強すぎて在来種のカワラナデシコなどを駆逐してしまう侵略性が問題となり、2005 年に特定外来生物に指定されました。

なごや生物多様性保全活動協議会では 2013 年に市民 200 名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、オオキンケイギクを駆除していくために 2014 年に「オオキンケイギク対策部会」を設立しました。部会員は 9 名です。

昨年までの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」が 2014 年初めに行った活動は駆除実験です。矢田川のふれあい橋付近で①抜き取り②刈取り③花切りの 3 つの駆除方法を毎週続けて 9 週間試行し、再生状況を検証しました。結果的には①の根ごと抜取り法だけが再生率 18% と駆除効果を確認できました。

①抜取り法	②刈取り法	③花切り法
再生率 18%	826%	161%

2015 年度からは山崎川の河川敷において駆除活動を始めました。地域選定の理由は川の延長が短く、市外からの流入もないため、オオキンケイギクの種子が市外から流入する恐れがないことと、地元住民に非常に親しまれている川であることです。名古屋建設業協会とも連携して、市民調査員、部会スタッフと 5 月から 6 月末までに合計 93 袋分のオオキンケイギクを駆除しました。

日付	人数	45 リットル袋
名建協　5 月 9 日	140 人	50 袋
市民　5 月 16 日	58 人	20 袋
スタッフ　6 月中	延べ 18 人	23 袋

今年度の活動報告

2016 年度も山崎川河川敷での駆除活動を継続しております。

● 5 月 14 日　名古屋建設業協会（略称：名建協）

活動の初日は 5 月 14 日に名建協にお願いしました。名建協は土木・造園・建築など地元建設業者 170 社の集まりで、定期的にゴミ拾いを行うボランティア組織を持っているので、昨年に続いて依頼しました。場所は一番多く生えている左右田橋から鼎橋までを担当し、当日は 120 名が河川敷の急斜面に生えたオオキンケイギクを根ごと抜き取って歩いてくれました。45 リットル袋換算で 84 袋分駆除できました。ありがとうございました。

● 5 月 21 日　市民調査員

一般市民への呼びかけに応募してくれた市民調査員はボーイスカウトを含む 55 名、協議会関係者は 20 名の合計 75 名が 5 月 16 日に抜取り活動をしてくれました。地元のコミュニティセンターでオオキンケイギクの侵略性と見分け方と抜き取り方を事前学習してから現地へ向かいます。ボーイスカウトリーダーのマイケル・クツ氏も講師をやってくれました。

オオキンケイギク対策部会

40 袋分のオオキンケイギクを山崎川の近隣地と河川敷から駆除することができました。お疲れさまでした。

● ６月７日～21日　部会スタッフ

その後 6 月いっぱいはオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除して行きました。この地域では河川敷内の擁壁が数メートルから 10 メートルも切り立っており危険を伴うため、ヘルメットやザイルを使っての駆除活動になります。5 回の活動で 29 袋のオオキンケイギクを抜き取り駆除できました。活動中は市民からの質問に答えることも多く、市民啓発にも役立てたと思います。

● １月22日・２月15日　部会スタッフ

しかし駆除活動を続けても萩山橋のあたりには夏過ぎには大量に再生してしまうため、今年度からは冬のオオキンケイギク抜取り会もやることにしました。そして根ごと掘り起こしやすそうな根掘りガマも試してみることにしました。

1 月 22 日と 2 月 15 日に部会スタッフ述べ 12 名で 14 袋分のオオキンケイギクのロゼットを引抜きました。新兵器の根掘りガマの効果は驚くほど高く、1 メートル以上の長さの根を掘り起こすことができました。これからはこれを使えば根をたくさん取り除けそうです。

今後について

2016 年度も継続して山崎川河川敷のオオキンケイギク駆除活動を続ける計画です。

名建協、市民募集、部会スタッフによる活動計画を作成中です。特に 5 月 20 日（土）には市民参加による駆除会を行うので、興味のある方はなごや生物多様性保全活動協議会（事務局：なごや生物多様性センター内　tel：052-700-7792）にお問い合わせください。

【広報部会】

なごや生きもの一斉調査 ～セミの抜け殻編～

名古屋昆虫同好会　間野 隆裕 ／なごや生物多様性センター　茶原 真佐子

はじめに

平成 21 年度から 5 年間、名古屋市生活衛生センターが市内 16 区においてセミの抜け殻調査を実施していました。セミが羽化に要する時間は 6 年～ 7 年と言われており、今年度の調査結果を過去の調査結果と比較できる絶好の年に当たるため、セミの抜け殻調査を行うこにしました。

セミは多くみなさんにとって身近な昆虫の一つにあたると思います。自然や生きものに親しみ、関心を持っていただくきっかけとなるよう、身近なセミについて学び、採集し、楽しく参加していただきました。

主な活動内容

実施体制　主催：なごや生物多様性保全活動協議会、共催：名古屋市みどりの協会、協力：間野隆裕

実施内容

1）リーダー事前講習会：8 月 7 日（日）

参加人数：46 名　8 月 8 日（月）

2）一斉調査：8 月 26 日（金）・27 日（土）・28 日（日）・29 日（月）

参加人数：のべ 357 名

調査地点：市内 37 地点（図 1）

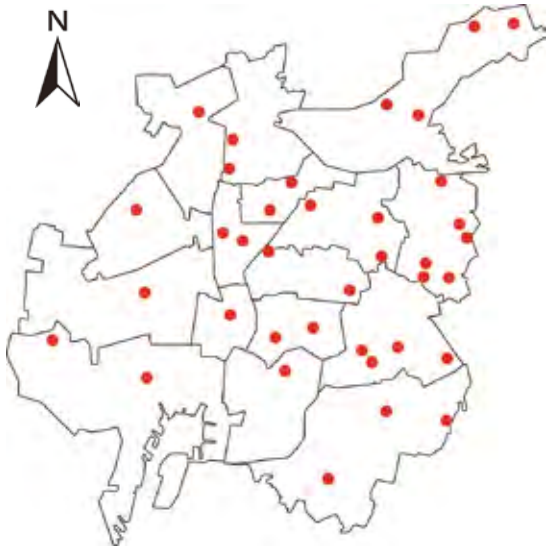


図 1. 調査地点

調査結果概要

名古屋市内では8種類が確認されていますが、今回の調査ではアブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミの以下の5種類が記録されました。

なごや生きもの一斉調査 ～セミの抜け殻編～

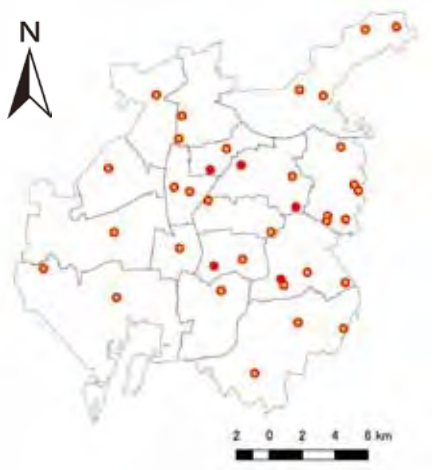


図 2. アブラゼミ記録地点

図 3. クマゼミ記録地点

図 4. ツクツクボウシ記録地点

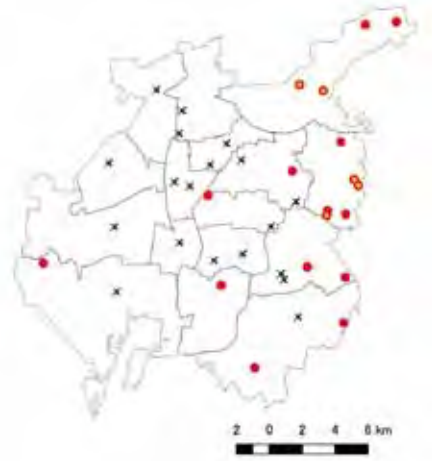


図 5. ニイニイゼミ記録地点

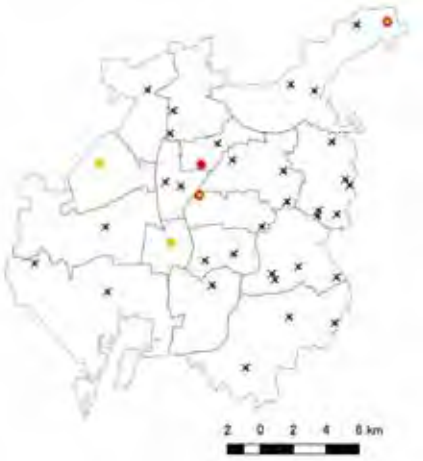


図 6. ミンミンゼミ記録地点

凡　例	
採集および目視・鳴き声確認地点	●
採集地点	●
目視・鳴き声確認地点	●
採集および目視・鳴き声確認できなかった地点	×

今回の調査で最も多く確認されたのはアブラゼミで、全体の約80％にあたる個体数でした。次に多かったのは、クマゼミで全体の約14％、最も少なかったのはミンミンゼミで全体のたった0.1％でした。確認されたほとんどがアブラゼミとクマゼミの大型のセミで、市内に広く記録されましたが、ツクツクボウシやニイニイゼミなどの小型のセミは一部地域に記録が偏っていました。

名古屋市内では、近年クマゼミの鳴き声が極めて多く聞かれるようになり、今回の調査でもクマゼミが最も多いのではないかと推察していましたが、予想に反して、全体としてはアブラゼミの個体数が圧倒的に多い事が判明しました。

図 7. 調査の様子

今回の調査結果や考察など詳しくは「なごや生きもの一斉調査2016～セミの抜け殻編～」報告書にまとめました。興味のある方は、なごや生物多様性保全活動協議会ウェブサイトにてご覧ください。

こちらからご覧ください。

http://www.bdnagoya.jp/calendar/bioblitz.html

【広報部会】

なごや生物多様性サマースクール2016

広報部会 部会長　眞弓 浩二

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象（一部大人の参加もあり）に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を行っています。

「夏休みの宿題応援します！」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が指導者となり、専門知識を活かした講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息する生きものたちに直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を準備しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に、目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

①蝶の採集と標本づくり
②甲虫の採集と標本づくり

①②共通
講師　名古屋昆虫同好会
日時　7月9日（土）9:00 ～ 15:30
会場　午前：猪高緑地
　　午後：なごや生物多様性センター設備棟
対象　小学生以上　　定員　各30名
※雨天により、午前中の採集は中止となりました。

③見てみよう！田んぼの生きもの・川の生きもの

講師　NPO法人　日進野菜塾
日時　7月21日（木）9:45 ～ 11:45
会場　日進野菜塾の田んぼ・岩崎川下流（日進市）
対象　小・中学生　　定員　30名

平成28年度の活動記録

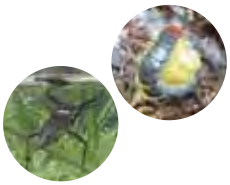
企画名称
なごや生物多様性サマースクール 2016

開催期間
平成27年7月9日（土）～8月9日（火）

講座数
全14講座

参加者数
のべ299名

講師人数
のべ77名



チラシ（表面）

④池のプランクトンの世界

講師　環境局環境科学調査センター・
　　滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
日時　7月22日（金）10:00 ～ 15:00
会場　午前：茶屋ヶ坂池・名古屋城外堀
　　午後：なごや生物多様性センター会議室
対象　小・中学生　　定員　20名

⑤クモのふしぎ発見！

講師　中部蜘蛛懇談会
日時　7月23日（土）9:30 ～ 12:00
会場　八事山（興正寺周辺の森）
対象　小・中学生　　定員　15名

なごや生物多様性サマースクール2016

⑥ 昆虫生息調査

講師　荒池ふるさとクラブ
日時　7月24日（日）10:00～15:00
会場　荒池緑地、農業センター 講習室
対象　小・中学生
定員　15名

⑦ 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう！

講師　相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時　7月25日（土）10:00～12:00
会場　相生山緑地オアシスの森
対象　小学5年生～中学生
定員　10名

⑧ 才井戸流の水棲生物～プラナリアを探せ!～

講師　環境局環境科学調査センター
日時　7月26日（火）10:00～14:00
会場　才井戸流、中志段味東コミュニティセンター
対象　小・中学生
定員　20名

⑨ カメのすむ身近な水辺を観察しよう!

講師　日本カメ自然誌研究会
日時　7月27日（水）10:00～15:00
会場　なごや生物多様性センター設備棟・植田川
対象　小・中学生
定員　30名

⑩ 外国からつれてきた虫って…どんなの?

講師　なごや外来種を考える会
日時　8月2日（火）10:00～11:30
会場　なごや生物多様性センター会議室
対象　小学4年生～中学生
定員　20名

⑪ 大矢川源流域の生きもの調べ

講師　愛知守山自然の会
日時　8月5日（金）10:00～12:00
会場　東谷山山麓 大矢川源流域
対象　小・中学生
定員　20名

⑫ 東山の森の落ち葉と土の中の生きものたち

講師　(特非)なごや東山の森づくりの会
日時　8月5日（金）9:30～12:00
会場　東山の森・里山の家
対象　小・中学生
定員　15名

⑬ チリメンモンスターを探せ！

講師　「あいちの海」グリーンマップ 他
日時　8月6日（土）8:30～15:00
会場　南知多町大井公民館、大井の海岸
対象　小学4年生以上～中学生
定員　30名

⑭ 田んぼに育つ生きものの世界

講師　NPO法人 日進野菜塾
日時　8月9日（火）9:45～11:45
会場　日進野菜塾の田んぼ
対象　小・中学生
定員　30名

定例会

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに 2012 年 10 月から始まりました。

平成 27 年度までは毎月 1 回の開催でしたが、今年度から偶数月の第 1 水曜日と、2 ヶ月に1回の開催に変更となりました。スピーカーの選出は、各月の担当幹事が決めます。幹事自身がスピーカーとなったり、紹介したいと思う方を招いて、自分達の活動の紹介や、研究しているテーマなどをお話ししていただいています。

開始当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。そんなこともあってか、毎月この会を楽しみにしている常連さんも増え、時には大学生ばかりでなく小学生まで参加される事もあり、この会の広がりを感じています。

来年度も偶数月の第 1 水曜日、午後 7 時から、場所は名古屋市環境局なごや生物多様性センターの会議室で開催は変わりません。皆さんの参加をお待ちしております。

また、スピーカーとしてお話ししていただける方も募集しております。

図．定例会の様子

● 開催実績（平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月まで）

回	月日	発表者		内　　容	参加人数
42	4/6	担当幹事　石原 則義（愛知守山自然の会）			30
		金城学院大学教授	小野 知洋	前半「大学キャンパスを里山に！」 後半「大森八竜湿地の歴史を探る」	
43	6/8	担当幹事　眞弓 浩二（雑木林研究会）			29
		水源の森と八竜湿地を守る会	柴田 美子	八竜湿地と水源の森と八竜湿地を守る会の現況	
		なごや生物多様性センター	長谷川 泰洋	里山林管理と生物多様性・生態系サービスのオフセット	
44	8/3	担当幹事　間野 隆裕（名古屋昆虫同好会）代行：寺本 匡寛（なごや生物多様性センター）			24
		名古屋昆虫同好会	池竹 弘旭	水生昆虫の魅力と採集方法	
		名古屋昆虫同好会	間野 隆裕	水生昆虫（？）ミズメイガについて　※代行：池竹 弘旭	
45	10/5	担当幹事　鷲見 順子（滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会）			19
		滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	鷲見 順子	滝ノ水緑地の紹介と、これまでの活動	
		名古屋昆虫同好会	大塚 篤	水生昆虫タガメからの問いかけ	
46	12/7	担当幹事　堀田 守（名東自然観察会）			17
		名東自然観察会	堀田 守	猪高緑地の紹介と、これまでの活動	
47	2/21	担当幹事　榊原 靖（環境科学調査センター）			28
		環境科学調査センター	長谷川 瞳	名古屋市内水域のネオニコチノイド系殺虫剤について	
		なごや生物多様性センター	寺本 匡寛	名古屋市およびその近郊に生息する水田棲カエル類の分布状況	

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通したなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用
  （調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当）
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内（月1回・メールのみ）

平成28年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成28年度　活動一覧

実施団体名　（敬称略）	活動内容
荒池ふるさとクラブ	荒池緑地昆虫生息調査／ 荒池緑地水辺の生き物調査
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会 （なごやの森づくりパートナーシップ連絡会）	外来種の駆除
橋本　啓史、もりづくり会議、 雑木林研究会　（樹林地部会準備会）	里山林における植物相及び植生の質調査
名古屋昆虫同好会	講演会
愛知守山自然の会	マメナシ剪定講習会／ 東海丘陵要素植物を育む地層の見学会

上記以外、大高緑地湿地の会、なごや外来種を考える会、名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち、なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、山崎川グリーンマップへの、物品の貸出も行いました。

● 平成 28 年度　市民調査員への催事案内　件数

月	H28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29年 1月	2月	3月
件数	4	6	4	2	3	4	3	6	4	5	4	5

会員活動支援

荒池緑地昆虫生息調査

荒池ふるさとクラブ　長屋 強平・櫻井 廣二

はじめに

荒池緑地での昆虫生息調査は、荒池ふるさとクラブ設立の平成 17 年から現在まで毎年開催しています。子供たちが好きな昆虫であるため、夏休みの最初の日曜日に開催します。今回は、協議会主催のサマースクールとしても受け入れ、両方の参加者が一丸となって調査を行いました。

今年度調査結果と感想

荒池緑地の生物多様性は、今年も変わるところがなかったようです。昆虫もチョウも多少の推移はあっても例年同様、別表のようにバランスよく生息しています。その中で唯一、目についたのがカブトムシです。昨年の捕獲はわずか 2。それが今年は 11 に増えました。その大半はここ数年、手を入れていなかった雑木林からです。カブトムシにとって手の入らない環境の方が生息、繁殖しやすかったのかもしれない。

ここから少々横道に逸れます。荒池ふるさとクラブの目的は「生物の多様性と自然との共生」です。そのためには人の手が必要です。しかし、動植物にとって本当に必要なことか。必要としているのは人ではないか。

最近、メディアにも再々、取り上げられる鳥獣被害。クマが人を襲い、イノシシは田畑を荒らし、シカは樹木を枯らし、サルは人家に押し寄せる。動植物との共生に古人が営々として築き上げてきた里山。整備された森林には山の恵みが豊富。クマもイノシシもそのエリアで生息。人は田畑中心に生活圏。日本人の英知が生み出した住み分けでしょう。

それが老朽化、過疎化で森林は荒れ、田畑は休耕地が目立ち、崩壊寸前です。人の手が入ることでバランスを保ってきた里山。ことに森林の荒廃は食糧難につながり、ケモノたちの生活圏が田畑、人家にまで。

動植物は本来、自然環境で生息。しかし、日本人は人にも動物にもやさしい環境を生み出しました。多様性、共生が可能。それが里山でしょうか。今風に表現すればウィン・ウィンの関係です。放置されていた荒池緑地に手を入れた以上、古人に倣い里山の再現に力を注ぎたい。また、活動は継続しなくてはならない。活動報告とは違った視点になりましたが、昆虫生息調査から感じたことを記させていただきました。

活動結果

調査日時　平成 28 年 7 月 24 日（日）
10：00 ～ 12：00　トラップ回収と採取
13：00 ～ 15：00　同定・整理・発表

調査場所　荒池緑地（雑木林、草地広場、田）

調査方法　果実トラップ、補虫網でスウィーピング

参加人員　参加者 58 名（子ども・保護者）
スタッフ 23 名
※サマースクールの参加者･スタッフも含む

講　　師　名古屋昆虫同好会　戸田尚希氏

整理･発表会場　農業センター　講習室

● 調査結果（確認種リスト）

科　名	種　名	個体数
イトトンボ科	アジアイトトンボ	4
トンボ科	シオカラトンボ	2
	オオシオカラトンボ	2
	チョウトンボ	1
	コノシメトンボ	1
カマキリ科	コカマキリ	1
	オオカマキリ	10
マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	1
キリギリス科	ヒメギス	1
	クビキリギス	1
コオロギ科	エンマコオロギ	6
バッタ科	ショウリョウバッタ	36
イナゴ科	イナゴ科の一種	11
オンブバッタ科	オンブバッタ	2
ヒシバッタ科	ヒシバッタ科の一種	1
ナナフシ科	トゲナナフシ	2
セミ科	アブラゼミ	4
	ニイニイゼミ	1
ツチカメムシ科	ツチカメムシ	5
シジミチョウ科	ヤマトシジミ本土亜種	1
タテハチョウ科	ヒメアカタテハ	1
アゲハチョウ科	ナガサキアゲハ	1
	クロアゲハ本土亜種	1
	アゲハ	2
シロチョウ科	キタキチョウ	1
	モンシロチョウ	3
ジャノメチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	1
センチコガネ科	センチコガネ	2
クワガタムシ科	コクワガタ	1
	ノコギリクワガタ	5
コガネムシ科	アオドウガネ	1
	コブマルエンマコガネ	1
	マメコガネ	3
	カナブン	6
	カブトムシ	11
タマムシ科	タマムシ	2
ゴミムシダマシ科	キマワリ	12
カミキリムシ科	ビロウドカミキリ	1
	ウスバカミキリ	1
	ノコギリカミキリ	1
ハムシ科	ウリハムシ	1
スズメバチ科	セグロアシナガバチ本土亜種	1

里山林における植物相及び植生の質調査

なごや生物多様性センター　長谷川 泰洋 ／名城大学農学部　橋本 啓史 ／雑木林研究会　眞弓 浩二

はじめに

里山林の保全活動等が植生の変化に及ぼす影響を把握するため、調査①: 相生山緑地のアカマツ再生区、調査②: 同緑地の広葉樹二次林、調査③: 名古屋大学構内の二次林を対象に植生調査を行いました。

調査①のアカマツ再生区では、アカマツ林の育成を目指して、常緑樹の除伐、落葉・表層土のゴウ掻きが行われています。調査②の広葉樹二次林は、元の土地利用の違いに着目して、1950 年代に畑でその後樹林地になった場所と当時から樹林地だった場所を調査地に含めました。調査③では、ナラ枯れ後のコナラ・アベマキ林（落葉樹と常緑樹が混交した二次林）に生育するエンシュウムヨウランに着目して、その生育適地の把握を試みました。本報告では、調査①と調査③の結果の概要を中心に報告します。

なお、この調査活動は、次年度に生物多様性保全活動協議会の一部会として、里山林や社寺林等の二次林を対象に活動する部会を新設することを念頭においた活動です。本報告の活動は、次年度以降は、部会の活動として引き継がれる予定です。

調査の概要

● 調査①: 相生山緑地のアカマツ再生区の調査

相生山緑地オアシスの森くらぶがアカマツ林の再生を行っている場所（相生山緑地の北部尾根部）において、低木層及び亜高木層の常緑樹を除伐した時期が異なる 3 調査区（15 年前、10 年前、5 年前）及び管理を行っていない対照区を設けました（表 1、図 1）。調査区は 6m×10m の方形コドラートで、その中に 2m×10m 枠を 2 列設け、2m×2m 枠別に植物社会学的植生調査及び樹高 1.3m 以上樹木の毎木調査（樹種、胸高直径、樹高）を行いました。

● 調査②: 相生山緑地の広葉樹二次林の調査

相生山の広葉樹二次林を対象にして、尾根部 – 谷部の組み合わせで 6 サイト（尾根部 3 サイト、谷部 3 サイト）、1950 年代の土地利用が畑か樹林かで 6 サイト（畑 3 サイト、樹林 3 サイト）、合計 12 カ所の調査区を設けました。調査区のサイズは、10m×20m の方形区で、さらにその中に 2m×20m 枠を 1 列設け、2m×2m 枠別に植物社会学的植生調査及び樹高 1.3m 以上樹木の毎木調査（樹種、胸高直径、樹高）を行いました。2016 年 9 月～ 2016 年 11 月まで行い、のべ大人 70 人程が参加しました。

表 1. アカマツ再生区の調査概要

調査期間	2016 年 10 月 18 日～ 2016 年 11 月 8 日の中で 5 日間
調査場所	相生山緑地【アカマツ再生区】
調査方法	除伐期が異なる 3 コドラート（6m×10m）及び対象区内の植生調査、毎木調査
参加人員	大人約 30 人（のべ人数）

図 1. 常緑樹の除伐後に生長したアカマツ
（2016 年長谷川泰洋撮影）

● 調査③: エンシュウムヨウランの調査

本調査では，名古屋大学東山キャンパス東部のエンシュウムヨウランの自生地を調査対象地としました（表 2、図 2）。まず、名古屋大学構内の樹林地全体を踏査して、当該種の生育地を特定し、13 コドラート（円形 100 ㎡）を設置しました。この中に個体数調査を行う 2m×2m 方形区のコドラートを設置しました。

表 2. エンシュウムヨウランの調査概要

調査期間	個体数調査：2016 年 5 月～ 6 月
	ハビタット調査：2016 年 7 月～ 9 月
調査場所	名古屋大学東山キャンパス、12 サイト 【100 ㎡円形コドラートと 4 ㎡方形コドラート】
調査項目	個体数調査：2016 年 5 月～ 6 月
	ハビタット調査：2016 年 7 月～ 9 月
	共生木の状況：最近隣のコナラ・アベマキからの距離、コナラ・アベマキの胸高直径など
参加人員	大人約 20 人（のべ人数）

図 2. 名古屋大学構内のエンシュウムヨウラン
（左：2016 年長谷川泰洋撮影、右：2005 年吉野奈津子撮影）

調査結果

● 調査①：アカマツ再生区の調査

アカマツ再生区（1 年前除伐区）でみられた樹種は、表 3 の通りでした。

常緑樹の除伐期が異なる 3 サイト別にアカマツのサイズを比較した結果、除伐した時期が早い程、樹高は大きくなっていますが、胸高直径は、除伐 1 年目と 5 年目、5 年目と 15 年目の成長量を比較すると、後者の成長量が落ちていました。15 年目のサイトは、比較的大きな個体が密に生え始めているため成長量が落ちてきていることが示唆されます。

● 調査③：エンシュウムヨウランの生育地調査

エンシュウムヨウランの生育地に共通してみられた特徴として、林分の開空率は 4 分の 1 程度（平均値 25.8%・標準偏差 3.6%），リター被覆率はほぼ

表 3. アカマツ再生区の樹種（1 年前除伐区）

階 層	科 名	学 名	学 名
亜高木層 【5-10m】	バラ科	*Cerasus jamasakura*	ヤマザクラ
	ウコギ科	*Gamblea innovans*	タカノツメ
低木層 【1-5m】	モチノキ科	*Ilex macropoda*	アオハダ
	ブナ科	*Quercus serrata*	コナラ
	モチノキ科	*Ilex pedunculosa*	ソヨゴ
	ブナ科	*Quercus glauca*	アラカシ
	マツ科	*Pinus densiflora*	アカマツ
草本層 【-1m】	ブナ科	*Quercus glauca*	アラカシ
	マツ科	*Pinus densiflora*	アカマツ
	モッコク科	*Eurya japonica*	ヒサカキ
	モチノキ科	*Ilex pedunculosa*	ソヨゴ
	ブナ科	*Quercus serrata*	コナラ
	ブナ科	*Quercus variabilis*	アベマキ
	ツツジ科	*Vaccinium bracteatum*	シャシャンボ

*各階層で樹冠面積が1㎡以上の樹種。各階層で樹冠面積が大きい順に並べた。

100%（平均値 99.6%・標準偏差 1.6%），生育地は全てコナラ・アベマキの樹冠下（樹冠を地上に投影した縁から 1m 範囲内）でした。また、エンシュウムヨウランの個体数と関係性が見られた環境要因は、土壌硬度、土壌 EC、林分の常緑樹率，最近隣のコナラ・アベマキの DBH でした。エンシュウムヨウランは、コナラ林に半分程度常緑広葉樹が混交する林分で多かったです。

まとめ

相生山緑地のアカマツ林は、常緑樹の除伐を行った時期によって、アカマツの成長度合いが異なりました。また、名古屋大学構内のエンシュウムヨウランは、コナラ林に半分程度常緑広葉樹が混交する林分で多いことが示唆されました。本報告では割愛しましたが、相生山緑地の広葉樹二次林調査では、過去の土地利用が異なる場所別に、種構成に違いがみられました。これらの調査結果は、引き続き集計、解析等を行っていきます。以上の結果から、過去の土地履歴、管理度合い、遷移の程度によって、里山林が様々な状態になることが示唆されます。里山林の保全計画を検討する際には、こうした条件を考慮に入れていく必要がありそうです。次年度の新部会でも、調査を継続し生物多様性が豊かな里山林の保全手法の開発に結びつけていきます。

会員活動支援

名古屋昆虫同好会　講演会

名古屋昆虫同好会 会長　間野 隆裕

はじめに

名古屋昆虫同好会では、毎年 1 月に総会を開催していますが、同時に会員活動支援を活用して、外部の有識者の方をお招きし、下記の通り特別講演を開催しました。

実施内容

日時：2017 年 1 月 8 日（日）
場所：名古屋中小企業振興会館 4 階会議室
講師：沖縄大学教授
　　盛口満氏

内容：「虫の姿にみる　れきしとくらし」
参加者：100 名

報告

講師の盛口氏は、千葉大学理学部生物学科をご卒業後、高校で理科教員を勤めた後、2000 年に沖縄移住したという異色の経歴の持ち主。現在は沖縄大学人文学部こども文化学科教授として、学生に様々な生きものについて教示され、その観察眼と卓越したイラスト力を駆使し、『昆虫の描き方』（東京大学出版会）、『テントウムシの島めぐり』（地人書館）、『くらべた・しらべた　ひみつのゴキブリ図鑑』（岩崎書店）など 60 冊以上の著書を世に送り出しています。

当日は、昆虫の話しにとどまらず、冬虫夏草など多くの生きものの知られざる生態の紹介をされ、また生きもの未経験学生への生きものふれあい実習をコミカルに紹介され、生きもの好きにするテクニックなどもあり、興味の尽きない講演でした。

図 1.　講演会の様子 1

図 2.　講演会の様子 2

会員活動支援

マメナシの剪定講習会

愛知守山自然の会　石原 則義

はじめに

守山区の雨池のほとりに 30 年以上も前に勝手に市民が植栽したマメナシ 11 本が保護もされないまま大きくなり、周辺も含め、荒れていました。10 年前までは、気にならなかったのですが、最近は、コナラなど周りの樹が大きくなり、マメナシに陽があたらない。マメナシの枝が伸び隣りどうしが攻めあえぐ状況になってきました。

それぱかりでなくつるが幹全体を覆い枯れた枝も出てきました。

これは何とかしないといけないと思い、雨池ホタルの会、8 月に発足したばかりの「蛭池のマメナシを守る会」、守山自然ふれあいスクール実行委員会にも呼びかけ、樹木医さんの力も借り、9 月 30 日午前中に講習会として実施しました。

調査結果

● マメナシの湿地環境

マメナシは湿地環境が好きなことが幸いし、湿地環境のおかげでほかの成長力の強い樹木が駆逐され、生き延びることができました。しかし、この場所は、乾燥気味になり、タラやアカメガシワが急激に幹を伸ばして高さをかせぎ、枝葉は上の方にだけ密生させるので、マメナシは、光を受ける場所が限られてしまいました。

シイやカシの仲間も同様、彼らは通常、芽だしのために必要な日の光りをあまり必要としないので、暗い中でも芽を出し、5 年でも 10 年でもゆっくりと成長します。しかし、ひとたび先端が日の光りを浴びるところに出ると、急激に成長し、一気に樹冠を広げてまわりの樹木を覆いかぶしてしまいます。

始めに、マメナシが植栽されたころは、池の池畔でさえぎるものもなかったようですが、マメナシの樹高は、高くなるよりは、枝張りを広げて生長する傾向があるので、30 年もたつと、周りの樹が成長をしてマメナシを脅かすことになりました。

図. 間伐・下草刈り

まとめ

● マメナシの剪定

今回の間伐は、人がマメナシを守るために、湿地環境にかわって人間が保全作業をかわるという考え方に則り、講師の指導の下、20 人近くを 2 班にわけ、作業を行いました。

樹木医出身の庭師は、「すみません、なるべく最低限にしますので切らせてください。」と心で言いながら剪定しているとのことでした。

今回の間伐作業に伴うマメナシの剪定は、どうしても管理上邪魔になる枝、内部が枯れて込み入っている枝、ほかのマメナシと競合している枝、すでに枯れて数年たっている枝など、講習会に参加された皆さんと話し合いながら剪定をしました。お蔭ですっきりしました。

本日の講師は、樹木医の板倉賢一氏・同じく河内文彦氏でした。勉強になりました。

東海丘陵要素植物を育む地層の見学会

愛知守山自然の会　石原 則義

はじめに

東谷山の湿地は、シデコブシやヘビノボラズなど豊かな自然が残されていましたが、手を入れないので荒れていました。2008 年 4 月から東谷山の南斜面の登山道の沢筋のシデコブシに陽があたるように保全をはじめました。東谷山の南西湿地は 2011 年 4 月から当会の有志も参加して、「東谷山湿地群保全の会」を立ち上げ、ハンノキの伐採、倒木、枯れ枝の除去、ネザサやヌマガヤ・チゴザサを刈るなど保全をはじめ、6 年を迎えようとしています。

シデコブシやヘビノボラズは、東海丘陵要素植物と言われています。その植物を育んでいる地層について、1 月 13 日（金）の午前中、造詣の深い、金城学院大学の森勇一先生を講師に招き、東谷山における湿地の成因をフィールドで探りました。参加者は 21 名。

調査結果

● 東谷山散策路の巡検

フルーツパークの東側に、頂上まで行ける散策路があります。散策路に沿って地層をみました。

遊歩道入口付近・入ってすぐに東海層群の猪高層（約 300 万年前）のシルト層や砂層が見られました。

暫くすると、遊歩道地面・柵内に大礫（ホルンフェルスの礫）中生代ジュラ紀（約 1 億 5000 万年前）の泥岩が花崗岩マグマにより接触変成を受けたものをみました。

登り坂が急になるところで、花崗岩に変わります。道が右にカーブし、そこから柵内を左手に下り、花崗岩の残石（矢穴痕・図 1 写真）をみました。苗木花崗岩（約 8000 万年前）と言われるものです。山頂までの 450m の看板のところでも柵内で矢穴石をみました。

続けて、古墳等山頂までの地層をみました。

図．矢穴（やあな）の痕

まとめ

● 東谷山における湿地の成因

二つ考えられます。一つは、傾斜地になっている部分に、東海層群（猪高層）の砂礫層が分布し、下位の猪高層の粘土層（あるいは花崗岩との不整合）上面より、湧水がしみだしていることです。

二つ目は、名古屋城築城にあたり、切り出しやすい最低所より花崗岩を採石し、その部分が凹地化して湧水がたまりやすくなったことです。または両方の理由です。

森勇一先生からは、ボーリングをすると湿地の成り立ちがわかるというお話でした。是非、ボーリングに挑戦したいと思います。

名古屋城築城に当たり、東谷山から切り出したと言われる花崗岩の矢穴の痕を興味深くみさせていただきました。森勇一先生に感謝です。

※「矢穴」とは石垣の石を切り出す際に鉄の矢を打ち込んだ穴です。

地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

平成28年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成28年度　活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池緑地の保全
中志段味の自然を次世代に伝える会	才井戸流湧水湿地保全
大高緑地自然観察会	ヒメボタルの食性調査
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦

牧野ヶ池緑地の保全

牧野ヶ池緑地保全協議会　巾 賢治

はじめに

牧野ケ緑地は緑地、ゴルフ場、ため池を有し、市民の憩いの場となり、親しまれている都市公園です。

緑地の中に入りますと、かつて里山であった痕跡があります。残された池、緑地、湿地の保全を目的に「牧野ケ池緑地保全協議会」を立ち上げ活動を行っています。1998 年頃まではカスミサンショウオ（トウキョウサンショウオ）も確認しておりましたが、湿地の水が枯れてしまい、以後確認できていません。ニホンアカガエルはワイワイ広場の人造池に産卵があり、立札、網などで保護していましたが、レッドリスト絶滅危惧 IB 類にもかかわらず、子どもが卵を土手に上げ遊び対象にされたため以後、産卵を確認することができなくなりました。

一方、池には園芸スイレンの増殖が拡大の一途をたどって、ガガブタの生育域を脅かすまでになってきております。

陸上のような絶滅状態を防ぐため、元生物多様性センターの中村肇氏の指導を仰ぎ、抜き取調査をおこなってまいりました。

図 1．調査仲間と打ち合わせ

図 2．抜き取り調査開始

図 3．スイレン処理場

調査結果

28 年度は 3 ヵ所目の抜き取り調査を 5 月、6 月の 2 回行う予定でいましたが、天候不順のため 11 月 7 日の 1 回のみの調査になりました。

今回の場所は周りが藪地であったが、釣り人が入り、水鳥に影響しないよう極力、スイレンの置き場所のみ確保し、作業を行う。

相当数の抜き取りであったが、一回のみのため、29 年度も同場所で行い、完全抜根と経過調査を行う予定です。

まとめ

牧野池の園芸スイレンの抜き取り調査を始めてから 3 年目になります。これまで 2 カ所の抜取りを終え、経過調査をおこなってきましたが再生の兆候が見られません。しかし、注視していく必要はあります。いずれにせよ、人員の確保、体力が持続調査の要となる為、地域にも協力を呼びかけながら継続していきたいと思います。

地域活動支援

才井戸流湧水湿地保全

中志段味の自然を次世代に伝える会 事務局　深田 仁

はじめに

才井戸流最上部面積約 2700 ㎡の湿地造成に必要な作業道具を提供支援して頂き、期待した成果が得られました。はじめに業者によるヨシの伐採・伸びてくる新芽は草刈機と耕運機で処分・根の粉砕はトラクターで・残根拾いをマンパワーでという作業手順を踏んでいます。不充分と思いますが写真を中心にこれらの経緯と成果を報告します。

経緯と成果を写真で

● 支援して頂いたドローンによる空撮写真です。抜根前のヨシの繁茂状態は一目瞭然。1 月。

● 業者によるヨシ刈り・草刈機・耕運機・残根拾いの後に貴重な旧植物が出てきました。

● 右端のトラクターと作業中にいっぱい出てきた土ガエル・トノサマガエルの子供たち。

● マンパワーによる協働作業では 5 回・総勢約 130 人の参加でソリとくま手は大活躍。

● 春を待つ今の様子です。湧水の完全復活を期待しながら復活途上の湧水です。

終わりに

湿地もこれからはコストコ誘致でアピタとは違った保護課題を抱えそうです。

地域活動支援

ヒメボタルの食性調査

大高緑地自然観察会 代表　高松 一史

はじめに

大高緑地公園を中心に活動する団体である。

大高緑地自然観察会の有志でヒメボタルの「幼虫の食性」調査を実施した。

活動内容

大高緑地公園はヒメボタル生息地である。

成虫の生息場所であるポイントで幼虫の食性である陸生貝の調査を実施した。

● ヒメボタルの食性調査

実施時期　2016 年 6 月 25 日　9:00–12:00

参加者　有志親子　人数：20 名

実施場所　恐竜パーク建設予定地

図 1.　調査場所

図 2.　採集調査結果

図 3.　採集時写真

調査結果

● 調査方法

① 土壌をすくい、ザル振う方法

② 倒木等を目視で確認していく方法

2 方法で実施を致しました。

● 調査の結果

4 種類以上の陸生貝を確認した。

「なごやで探そう！カタツムリ」2012 陸貝編　報告書を参考にさせて頂きました。

調査場所は、恐竜テーマパークとなり、現在は侵入禁止となっています。

まとめ

今回の調査の結果、ヒメボタルの成虫の飛来するポイントには、多くの陸生貝が豊富に生息することが確認出来ました。

参加者は自主保育グループ「あおぞら」の協力を頂き小さなお子さんにも楽しんで、生物多様性＝みんなと同じように個性（いろんな形や性格）があることや日頃目につかない土壌にも沢山の生きものが生息していることを理解してくれました。

地域活動支援

細口池の生きもの復活作戦

細口池生きもの復活クラブ 代表　浅井 正明

はじめに

細口池生きもの復活クラブは、天白区内の細口池で、①ツバメのねぐらを復活させるためヒメガマを除去しヨシの生育を促進させる②生物多様性を保全するためヒメガマとヘドロを除去して水面を再生し、生きもの調査を実施して生物種を確認するとともに外来生物の除去を行っています。池面積（約 6,000 ㎡）全面覆っていたヒメガマとヘドロは 3 年間の活動で水面 40%、ヨシ 40%程度復活させることが出来ました。

活動内容

平成 27 年度調査及び保全作業は、毎月 1 回の定例活動と若干名による常時の活動を行いました。

● 定例活動：毎月第２土曜日　会員

活動日	活動内容
4 月 9 日	ヒメガマ根茎除去 12 人
5 月 29 日	トンボ生息調査 10 人
6 月 11 日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り 7 人
7 月 16 日	ヒメガマの根茎除去，説明看板設置 6 人
8 月 26 日	生物調査カメわなの池内設置 45 人
8 月 27 日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9 月 17 日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り 12 人
10 月 8 日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り 11 人
11 月 12 日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り 12 人
12 月 10 日	ヒメガマの根茎除去･刈り取り 11 人
12 月 17 日	活動報告会 15 人
1 月 14 日	降雪で活動中止
2 月 11 日	ヒメガマ･ヨシ刈取り 8 人

● 常時活動

活動日	活動内容
4 月 1 日～2 月 20 日（ほぼ週 2 回）若干名	ヒメガマの根茎除去・ヘドロの除去、ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ
毎週土曜日 4 名	池内清掃、排水口清掃

● 生物調査結果：8/26・27 実施

今回の調査は、カメわな、モンドリ、ガサガサによって生きものの捕獲調査をしました。カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニは依然として多数採集できましたが、モツゴ、スジエビなど在来種は種数･個体数とも減少しました。捕獲した在来種は池に放流し、特定外来生物は処分しました。

● ５年間で確認された種

分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間､フナの仲間､モツゴ､トウヨシノボリ､カダヤシ､コイ
甲殻類	モクズガニ､スジエビ､アメリカザリガニ､ミナミヌマエビ
は虫類	クサガメ､ニホンイシガメ､ミシシッピアカミミガメ
両生類	ウシガエル（幼体多数､成体）
鳥類	バン､アオサギ､コサギ､カルガモ､オオヨシキリ､カワセミ､ツバメ､コガモ､セグロセキレイ､ハクセキレイ､カイツブリ､ダイサギ､ヨシゴイ､カワラヒワ､カワウ他
昆虫類	ヒメミズ､カマキリ､ギンヤンマ､シオカラトンボ､オオシオカラトンボ､チョウトンボ､ウスバキトンボ､コシアキトンボ､ショウジョウトンボ､クロイトトンボ､アジアイトトンボ

まとめ

5 年間の調査でブルーギル、ブラックバスは確認されていません。一方、ニホンイシガメは、繁殖も確認されています。侵略的外来生物の影響は比較的軽微と思われますが、カダヤシ、ウシガエル、ミシシッピアカミミガメの生息が顕著です。今年度はトンボ類の専門家調査を 7 回実施し 10 種確認しました。鳥類調査も専門家が随時行っており、季節ごとの種が確認されています。ヒメガマの根茎切除･掘り上げ、ヘドロの除去等によって園芸スイレンは絶え、水環境が向上し、ヨシ生育域が著しく増加しました。当初の目標以上に成果を見ることができました。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然保全活動の創出を応援しています。

開始から2年目にあたる平成28年度は、5件の採択がありました。

平成28年度　活動一覧

実施団体名　（敬称略）	活動内容
名古屋昆虫同好会	昆虫採集を通して環境保全へ関わる後継者の育成
東海高校・中学校　生物部	中部地方の山地と水域の野外調査および生体の飼育展示による啓蒙活動
中志段味の自然を次世代に伝える会	才井戸流の自然保全
かんでら monzen亭	カメ池周辺の生物観察会
名東自然倶楽部	シダレザクラの保全

相生山緑地自然観察会

▲吸蜜中のアサギマダラ

団体の目的・主な活動内容

■目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え、広めることを目的とする。

■活動
・観察会
・調査・保全・保護活動
・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
・各関係機関とのパートナーシップ事業
なごや生物多様性センター、生涯学習センター 他
・他団体との情報交換など

平成 28 年度の活動について

■定例観察会：毎月第 4 日曜（ただし 10 月は第 3 土曜）に、四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
■上記以外の特別活動
5/15(水)　第 15 回ヒメボタルサミット in 愛知」参画　共催：名古屋市科学館
5/20(金)　「ヒメボタルを育むオアシスの森」　主催：港生涯学習センター
5/26(金)　天白もり・フォーラム「そっと観察しよう～ヒメボタル」
6/28(金)　森の散策　主催：みどり会
8/28(金)　「セミの抜け殻調査」　於：相生山緑地オアシスの森　主催：なごや生物多様性保全活動協議会
10/ 9(日)　旅をするチョウ“アサギマダラのマーキングをしよう”　共催：東山植物園
10/23(金)　天白区民まつりにブース出展（クラフト、パネル展示）主催：名古屋市天白区

団体の情報

主な活動場所　相生山緑地オアシスの森（天白区）

相生山緑地自然観察会
TEL/FAX：(052) 822-7460　E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp
ブログ：http://ngyaioi.blogspot.jp/
■例会の予定：定例観察その他

「あいちの海」グリーンマップ

▲クサフグの集団産卵

▲夜のアマモ場の生物調査

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾という素晴らしい海の魅力を町の人や地元の人に知ってもらうこと。

平成 28 年度の活動について

①南知多町長谷崎のアマモ場生物調査
5 月 9～11 日、きしわだ自然資料館の研究員、柏尾翔氏の指導のもとで行いました。三河湾では､おそらく初めてであろう､生きたシャミセンガイが見つかったほか、新種のナマコも見つかりました。
②ヨットで佐久島へ！
5 月 14 日【土】河和港からヨットで佐久島へ行きました。途中、スナメリが何度も近くまで寄ってきました。佐久島では川瀬基弘先生の指導の下で、化石拾いをしました。
③クサフグの集団産卵観察会　6 月 4 日【土】午後 3 : 00 ～ 5 : 00
④南知多大井で地元産のチリメンモンスターをさがせ!　ワークショップ開催
8 月 6 日、なごや生物多様性保全活動協議会主催、サマースクール 2016 として開催。その他、地元の子どもたち、名古屋市立大学人文社会学部学生が参加。講師はきしわだ自然資料館の柏尾翔氏、地元の漁師･山下さん、チリメン業者の山下喜美子さん。午後は、南知多町社会教育課長森さんの案内で大井の町の散策。
⑤ウミホタル観察会　8 月 6 日夜
⑥南知多町長谷崎のアマモ場夜の生物調査
11 月 14 ～ 16 日、真夜中に潮がひくこの時期の夜間生物調査。季節来遊魚であるチョウチョウウオのほかガンガゼを発見。地球温暖化による生物相の変化は、海にも現れている。
⑦南知多町大井、片名地区の昔の様子の聞き取り調査
2016 年度は、地元大井の子どもたち、名古屋市立大学学生によって戦後間もない頃、三河湾がきれいだった頃の聞き取り調査を行いました。2017 年度は、師崎中学校の協力を得ています。

団体の情報

主な活動場所　三河湾　南知多町

「あいちの海」グリーンマップ
TEL/FAX：(052) 841-6048　E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp　ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

愛知守山自然の会

▲シデコブシ自生地視察

団体の目的・主な活動内容

平成 16 年から守山区の小幡緑地を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に　①一般参加者向けの自然観察会の実施　②せせらぎ湿地の保全・保護　③マメナシなどの希少生物の保全　④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら、活動をしているボランティア団体です。全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全に参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

平成 28 年度の活動について

4 月：三重県菰野町多光のシデコブシ・多度のマメナシ視察
5 月：福井県敦賀市中池見湿地ラムサール条約湿地視察
6 月：守山生涯学習センターの講座担当
8 月：マメナシサミット（三重県多度町）に参加
9 月：雨池のマメナシ剪定講習会に協力
10 月：蛭池のマメナシ観察会（糖度測定・樹木診断・果実数の調査・発芽促進の耕転作業）に協力
11 月：小幡緑地秋祭り・自然ウォークに協力
1 月：東海丘陵要素植物を育む地層の見学／公園・夢プラン大賞に入選（小幡緑地せせらぎ湿地の木道づくり）

団体の情報

主な活動場所　小幡緑地本園内　せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会
TEL/FAX：(052) 711-3087　　E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp
■例会の予定
【自然観察会】毎月第 2 土曜日 10：00 ～ 11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前　9：45 集合）
【保全活動日】毎月第 2 水曜日・第 4 日曜日 10：00 ～ 12：00（小幡緑地本園内（せせらぎ湿地・マメナシ自生地））

雨池ホタルの会

▲さくら道の保全活動

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で 1000 番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成 10 年 5 月末、会員の 1 人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

平成 28 年度の活動について

・毎月第 1 土曜日午後 8 時から 1 時間ほど、大森交番前に集まって、地域の防犯パトロールを行いました。
・毎月第 2 及び第 4 土曜日は「雨池公園愛護会」として、雨池周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。平成 28 年度の特別活動として、8 月 20 日（土）に総勢 80 名の参加者で毎夏休み恒例のお楽しみ会「夏だ！元気にあそぼう」（魚釣り、虫取り、スイカ割りなど）を行いました。12 月 10 日（土）の定例活動日に桜の根元から少し離れた場所にダブルショベルで多数の穴を掘って、有機肥料を施しました。子供たちに楽しんでもらえる雨池公園を目指しています。
・例年より 1 週間早めて 5 月 21 日（土）にホタル観察会を行い、80 名ほどの参加者がありました。大森北小学校の校庭に集まって、ヒメボタルに関するスライドを使った話を聞いて、ホタルクイズにも挑戦しました。その後、雨池周辺でのヒメボタルの観察を行いました。
・3 月 4 日（土）には学区子ども会連合会や大森北小学校 PTA と共催で「もちつき大会」を行いました。

団体の情報

主な活動場所　名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会
TEL：(052) 792-0022　　E-mail：rei-hirose@gaea.ocn.ne.jp
■例会の予定：毎月第 2 及び第 4 土曜日、午前 10 時から

荒池ふるさとクラブ

▲田植え

団体の目的・主な活動内容

荒池ふるさとクラブは、平成 16 年から荒池緑地で保全活動を行っています。

活動目的は、名古屋市と地域との協働で策定された「荒池なごやかファーム構想」の趣旨に賛同し、荒池緑地を次世代に引き継ぎ、生物多様性を保全し、自然との共生を目指します。

活動内容は、自然観察（植物、昆虫、野鳥など）、緑地の整備、水田 / 畑の耕作、果樹の栽培、間伐竹の炭焼き、間伐材を利用したクラフト、各種イベントへの参加、近隣小学校の総合学習の協力などを行っています。

活動日は、第 1 土曜日は運営委員会、定例活動日は第 2 土曜日・第 3 日曜日・第 4 土曜日です。

平成 28 年度の活動について

緑地の整備（竹林、雑木林）と水田での稲作を中心に、里山の風景の復元を目指した活動を行いました。

主な月別活動は、4 月に植物観察会、5 月に田植え、6 月・12 月・1 月に天白土木事務所と農業センターと共催で、筍と果樹の収穫体験とミニ門松作りを一般募集した市民と協働で実施。7 月にはなごや生物多様性保全活動協議会の協力を得て、水辺の生き物調査と緑地の昆虫生息調査、天白消防署の協力による安全講習会の開催。水田の稲作関係では、8 月に案山子づくり、10 月に天白区役所の天白自然体験スタンプラリー参加者と稲刈りを、10 月に脱穀と籾摺り、12 月に収穫祭で餅つき大会を開催。11 月は 5 月に植え付けしたサツマイモの芋掘りと新たな活動エリアの二つ池エリアの整備、12 月に正月に向けたミニ門松を作成。1 月には荒池の冬鳥観察会の開催。2 月と 3 月には間伐竹で炭焼きを実施。10 月に天白区民まつり、11 月に農業センターまつりのイベントに竹細工で参加。年間を通じ竹林と雑木林の整備は主体活動として実施。

団体の情報

主な活動場所　荒池緑地

荒池ふるさとクラブ（代表　熊岡篤史）
TEL：(052) 832-4415　　FAX：(052) 832-4418　　E-mail：atushi-k0712@docomo.ne.jp
ウェブサイト：http://www.geocities.jp/araikefurusato/　《[荒池ふるさとクラブ] で検索》
■例会の予定：第 1 土曜日　運営委員会、第 2 土曜日　定例活動日、第 3 日曜日　サンデー定例活動日、第 4 土曜日　プラスワン定例活動日
活動時間：10:00 ～ 15:00 ／集合場所：農業センター指導館ロビー

伊勢・三河湾流域ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

当会が設立当時に訴えたことは、「伊勢・三河湾の流域」という生態的まとまり(Bioregion)の価値が認識されず、省庁割、地域割の思考と施策でバラバラに管理され、痛めつけられてきたことを指摘できるのは市民団体ではないか。それに気づいた私たちが率先してささやかながらアクションを起こそうという呼びかけでした。当時掲げたミッションは、①流域や山・川・里・海の連関の思考を重視する、②すでに行われている市民活動を尊重し、つなぎ役になる、③市民参加・研究者参加型の流域調査手法を鍛えよう、④将来、産・官・学・民の協働的な事業・活動展開を望む、といったものでした。

現在の伊勢・三河湾流域の現状を直視するにつけ、われわれが重視してきた「流域の視点」「批判的提言」「市民団体間の連携」「調査をベースに置く」「国連の目標との連動」の重要性はますます高まっていると感じています。

平成 28 年度の活動について

○「伊勢湾流域圏の再生シンポジウムⅡ～生物多様性 COP10 から 6 年・長良川河口堰運用 21 年」を開催。
日時：2017 年 3 月 12 日（土）、13:30 ～ 16:45、場所：ウインクあいち
共催：伊勢・三河流域ネットワーク、四日市ウミガメ保存会、国連生物多様性の１０年（ＵＮＤＢ）市民ネットワーク、よみがえれ長良川実行委員会、中部の環境を考える会
昨年初頭 1 月 31 日に四日市で第一回シンポジウムが成功裏に行われ、その後「伊勢湾流域圏再生実行委員会」が立ち上がりました。本シンポでは「愛知目標」の達成に向けた日本の「流域圏政策」の課題を確認し、さらに長良川河口堰の最適運用方法、三河湾再生の課題について専門家から具体的に問題提起をいただきながら、議論を進めていきたいと思います。

○当会の 10 年強の活動から得てきた知見のエッセンスをわかりやすく伝える新シリーズの「山川里海セミナー」を開催します。講義 1.5 時間、討論 30 分計 2 時間で、1 年間に 10 回程度行います。

○当会はおととし 1 月で 10 周年を迎えました。この 10 年を振り返り、私たちの経験を次代に継承していくために「伊勢・三河湾流域ネットワーク 10 年の歩み」を作成しました。配布価格としては（印刷実費より大幅に安く）300 円とさせていただきました。読んでいただける方は事務局までご連絡ください。

団体の情報

主な活動場所　伊勢・三河湾流域圏

伊勢・三河湾流域ネットワーク
E-mail：office@isemikawa.net　　ウェブサイト：http://www.isemikawa.net/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月 1 回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の自然観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出ていた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物シラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は 2000 年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001 年 9 月に県から許可が下り、2002 年から活動に入りました。

平成 28 年度の活動について

現在の活動内容（右表）は、毎月第二日曜日 9 時から 11 時 30 分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、夏場には市民参加の「トンボを守ろう！ザリガニ釣り大会」を実施して、駆除を通じての外来種問題の PR や、有志による自然観察会も行っています。

団体の情報

主な活動場所　大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表　大主順一）
TEL：(052) 413-4435　　E-mail：yoka1115@violet.plala.or.jp
■例会の予定：無し

【主な活動内容】

1 月	たまり池の泥上げ
2 月	コモウセンゴケの丘の刈り込みと落ち葉掻き
3 月	湿地上部・誘導路の草刈り
4 月	冬鳥の餌場の草刈り
5 月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6 月	中央湿地の草刈り
7 月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8 月	池のアシ刈り
9 月	トンボを守ろう！ザリガニ釣り体験会（一般参加）
10 月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11 月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12 月	中央池の泥上げ

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のカスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報を共有をする。

平成 28 年度の活動について

毎年の活動は、名古屋市内の生息場所ごとに保全をし、情報共有を図っている。時に協力をしながら生息地の水辺環境の整備と見回りや生息数調査活動をしている。

活動人数約9人

団体の情報

主な活動場所　名古屋市内全域

尾張サンショウウオ研究会
TEL/FAX：(052) 781-2595（瀧川正子）
E-mail：fwie6142@mb.infoweb.ne.jp（藤谷武史）
takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川正子）
■例会の予定：不定期

▲カスミサンショウウオの幼生

▲カスミサンショウウオの上陸個体

かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

団体の目的・主な活動内容

笠寺まちづくり団体「かんでら monzen 亭」の活動の一つ。笠寺観音商店街屋上にて西洋ミツバチの飼育を行い、商店街活性化の他、ミツバチの育つ安全な環境づくりをテーマに、無農薬の花や野菜づくりの事業も推進する取り組み。平成 25 年より正式にプロジェクトを開始、ミツバチの飼育応援団と花づくり応援団を構成し、ミツバチを通じた環境教育講座を執り行い地域活性化事業を継続中。

平成 28 年度の活動について

季節に準じたミツバチ育ての内検作業とともに、採蜜や蜜ろう採取など商店街活性化の地域資源として活用の計画に基づき、みつばち食堂の無農薬畑で育てたらっきょを、はちみつ漬けにした新商品も作成、28 年春に販売開始。環境づくりにおいては、小学校トワイライトとリハビリテーション病院の 2 会場にて、「ミツバチの不思議」連続 3 回講座を実施、ミツバチの環境における役割や共存などをテーマにワークショップを行った。また、図書館主催の蜜ろうキャンドルづくりイベントや地域ものづくりイベント、名古屋市商店街組合イベントにも参加、地域の人々との交流を深めた。

28 年度はシニアパワーを巻き込んで、みつばち手仕事部として、毎月 3 回各会場にて、花苗づくりや収穫種の仕分け梱包作業を定期開催。

団体の情報

主な活動場所　笠寺観音商店街界隈を中心とした地域

かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
TEL：(052) 822-0885　　FAX：(052) 822-5466　　E-mail：kasadera@minamix.net
ウェブサイト：http://machiwiki.sakura.ne.jp/
■例会の予定：かんでら monzen 亭 - 毎月第 2 土曜日 9 時～ 11 時／ミツバチプロジェクト - 毎週 1 回午前（季節に準じて回数や集合時間が変わります）- 花手仕事部　第二月曜午前・第三火曜午前・第三木曜午後

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今日的価値を探求することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

・オープンセミナー　・研究会　・フィールドワーク
・研修ツアー　・協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ

・子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育）
・アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク）　・公園空間としての雑木林
・ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力）　・住民参加・協働の場としての雑木林
・里山保全活動と市民講座　・里山型公園緑地のマネージメント　・里山林と木質バイオマスエネルギー
・里山林の水源涵養機能と雨水利用　・里山林と木工芸・木育など。

平成 28 年度の活動について

●オープンセミナー　「都市のグリーンインフラとしての里山・雨庭を考える」2016/2/27
●フィールドワーク　・豊田市民芸の森「民芸の森づくり講習会」4 回　2016/10/22・11/26・12/24・2017/1/28
・あいち小児保健医療総合センター内樹林地「アチェメックの森ワークショップ」
4 回　2016/04/24・07/24・10/23・12/23
●参画活動　犬山里山学センターほか「里山保全技術講習会」3 回　2016/11/23・12/11・2017/3/20

団体の情報

主な活動場所　特定の活動場所は持たない

雑木林研究会
TEL/FAX：(052) 262-3181　　E-mail：k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp
■例会の予定：毎月第 1 月曜日　午後 7 時より

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

○目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
○創設：1969年
○会員数：140名
○会誌「蜘蛛」年1回発行
○通信誌「まどい」年3回発行
○総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念日）
○観察会（年4回以上）合宿（年1回）

平成28年度の活動について

（事業年度：2月～翌年3月）
○主な活動
・総会・研究発表会・懇親会（2月11日ウィルあいち）
・観察会（4月～10月　全4回　愛知県内）
・合宿（7月30日・31日　三重県伊賀市）
※三重クモ談話会と合同で実施
・なごや生物多様性サマースクール
「クモのふしぎ発見！」（7月23日：名古屋市八事）
・なごや生物多様性センターまつり
ブース展示（10月30日）

▲蜘蛛の観察合宿（三重県伊賀市）

▲合宿で観察したアカイロトリノフンダマシ

団体の情報

主な活動場所　特定の活動場所は持たない

中部蜘蛛懇談会
E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp
ウェブサイト：http://ckumo.sakura.ne.jp/　《［中部蜘蛛懇談会］で検索》
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）
○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎
○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。
「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが目的です。
活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。
他との協働も積極的に行います。

平成28年度の活動について

5月～6月　協議会「オオキンケイギク部会の山崎川駆除活動」に携わりました。延べ211人でゴミ袋153袋分のオオキンケイギクを駆除できました。

7月にアメリカザリガニ駆除実験を行いました。猪高緑地内の池「米ぬか撒き餌法」「カニ罠法」「竹筒マンション法」でアメリカザリガニの捕獲数やかかった時間を検証したところ、「カニ罠法」が安定的に捕れることが分かりました。また7月末には名東生涯学習センターで「アメリカザリガニを食べる会」を開催し、100匹のアメリカザリガニをゆでて15人の参加者に食べてもらいました。意外なおいしさにみんなビックリしていました。

9月は「環境デーなごや」に「アメリカザリガニ駆除実験の比較展示」「外来種立体パズル」で出展しました。大人から子供まで外来種の問題を一緒に考えることができました。

10月は外来種勉強会を開催。中部地方環境局野生生物課の高木丈子先生には、昨年新しくなった「生態系被害防止外来種（429種）」リストを中心に解説してもらいました。また金城学園大学非常勤講師の野呂達哉先生には、カメやアリゲーターガーなどの除活動報告をしてもらえました。受講者からの質問も多くて時間が足りなくなるほどでした。

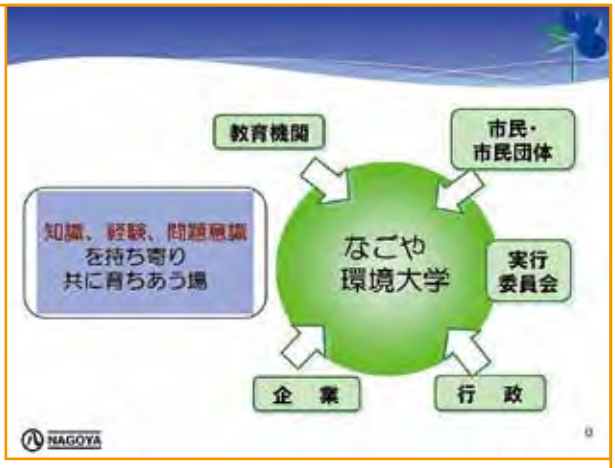
1月は「トウネズミモチの駆除実験」を行いました。一般的に駆除しにくい外来樹木と言われていますが、除草剤などの薬品を使わずに、切り倒した切口に食塩を盛るだけで枯れる「塩盛り法」や、細い切り株にガムテープで筒の様に巻き塩を詰める「テープ筒塩」などの駆除方法の検証中です。

団体の情報

主な活動場所　その都度検討

なごや外来種を考える会
TEL：090-8867-9725　FAX：（0561）62-5510　E-mail：nonaka@kato-ken.co.jp
ウェブサイト：http://nagorai.org/　活動ブログ：http://blog.goo.ne.jp/nagorai
■例会の予定：不定期

「なごや環境大学」実行委員会



団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

平成 28 年度の活動について

平成27年度「なごや環境大学」は10周年を迎えました。今後も、これまで以上にネットワークが拡がるよう、分野・主体・世代を超えた交流の場や、それぞれの主体が持つ知識や経験をつなぎ合わせる場などを創り出し、人づくり・人の輪づくりをすすめていきます。

＜平成28年度の主な主催事業＞
- みんなで歩く　ワクワクなごや（全5回154人）
- なごや環境ハンドブック　イモヅル式レポートづくり講座（全4回43人）
- あっちぃ地球どうする？環境と防災を考えよう（6日間1274人）
- 環境デーなごや2016　中央行事（730人）
- エコプロ2016（3日間395人）

団体の情報

主な活動場所　まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会
TEL/FAX：(052) 223-1223　　E-mail：jimu@n-kd.jp
ウェブサイト：http://www.n-kd.jp

名古屋昆虫同好会

▲シンポジウム

▲夏の採集会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、様々に進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ること、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない 1949 年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約 230 名の虫が好きな人が入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年 4 回発行しています。

平成 28 年度の活動について

- 「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年 4 回 3 ヶ月ごとに発行。
- 1 月第 2 日曜日 年次総会の開催
- 1 月と 10 月を除く毎月第二土曜日（原則）月例会実施
- 10 月第 2 日曜日 虫供養（千種区桃厳寺）実施
- 4 月ギフチョウ観察会 in 岐阜県中津川市
- 7 月採集会 in 中部地方の適地

団体の情報

名古屋昆虫同好会（会長　間野隆裕）
TEL：090-9924-3518　　FAX：(052) 442-1503　　E-mail：manotaka@muj.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www7b.biglobe.ne.jp/~jpcat/meikon/
■例会の予定：毎月の例会と総会は名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4 階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋自然観察会

▲ふるさと親子自然観察会（名城公園）

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（（財）日本自然保護協会による認定資格者）によって1982 年に結成されました。現在の会員数は約 100 名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。

平成 28 年度の活動について

① 市内 9 箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチュア・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
② 子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を 3 回実施しました。
③ 名古屋市環境局環境学習センターと協働したふるさと親子自然観察会を5月に､エコパルワークショップを8月に実施しました。
④ 名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会（6 月）を実施し、環境デー中央行事（9 月）にブース出展しました。
⑤ 名古屋市内の幼稚園や保育園､小学校などへ環境サポーターを派遣し､名古屋市環境局のエコキッズ事業を実施しました。
⑥ 会員のスキルアップを目的とした研修会を 3 回実施しました。
⑦ 愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
⑧ ホームページなどを通じて情報発信しました。

団体の情報

主な活動場所　市内の緑地や公園

名古屋自然観察会
TEL：(052) 782-2663　　FAX：(052) 781-8127　　E-mail：takilin@sf.starcat.ne.jp
ウェブサイト：http://www.nagoyashizen.net/
■例会の予定：例会は実施していない。役員会は偶数月の第 3 日曜日

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

▲12 月 17 日　「外堀を知ろう！体験会」外堀を体感

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。
1975 年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教員と教え子や親御さん方等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。
ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。
歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。

平成 28 年度の活動について

○ホタル発光の時期、毎晩 23 時頃～ 2 時頃、ホタルの数を数え毎日 HP に UP、人々のご案内をしました。ホタル発光の時期が例年 5 月 6 月でしたが、本年度は 4 月 5 月となりました。6 月は、ホタルがいなくて人が来る状態でしたので一人一人説明して対応させていただきました。ホタルの観察は 4 月中旬～ 6 月まで行いました。
○年々、深夜観察に来る方々の数が増えていることが嬉しいことであり、課題でもあります。なごや生物多様性保全活動協議会から、課題対策のご支援をいただき、カラーコーンや蛍光塗料を使った矢印表示で、通り道を示すようにしました。また、本年度は、例年実施していたお話会をやめて、いらっしゃる方たち個々に対応させていただきました。
○「外堀を知ろう！体験会」では、市・企業の方々と共に、外堀の自然観察をしたり、清掃を行ったりしました。講師の先生のもと、2 歳児～小学生・高校生・大学生～ 70 代の方まで、体験しながらみんなで楽しく学べる大変貴重な時間を過ごすことができました。冬虫夏草やヒメボタルの幼虫を発見するなど、外堀を十分に体感し知ることができました。
○調査として、ヒメボタルの生活環境を調べるために、地中温度計の設置をしており、年間を通して計測中です。また、幼虫の生態調査もご指導をいただきながら実施しています。

団体の情報

主な活動場所　名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
E-mail：kazuyo29@gmail.com（事務局長　安田和代）　　ウェブサイト：http://sotobori.sp.land.to/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

リンネの生誕 300 年（2007 年）、ダーウィンの生誕 200 年（2009 年）、杉浦昌弘（名市大院システム自然科学）の文化功労賞授与（2009 年）を受けて、名古屋市立大学では、2009 年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、全生物種について特定の遺伝子の塩基配列をカタログ化し、生きものの名前を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという取り組み（DNA バーコード計画）に呼応して、当研究センターでは、東海地方の生物を手始めに、様々な生物群の DNA データを収集しています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

平成 28 年度の活動について

多方面の方々のご協力をいただきながら、DNA バーコードデータベース作成のために、標本の収集と分析に力を入れてきました。カイ類、植物、ゾウムシなどの収集と DNA 分析の他、矢田川・庄内川に生息するコイ、アユ、ヤマトシジミなどについて遺伝子多様性を分析しています。ハマグリでは、遺伝子多型が少ないのに対し、ヤマトシジミやアユでは高い傾向が認められました。引き続き調査する予定です。

▲DNA バーコードを決める手順と実際に実験を行なっているところ

団体の情報

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター
TEL：(052) 872-5851　　FAX：(052) 872-5857　　E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp
ウェブサイト：http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

平成 28 年度の活動について

○平成 28 年度の加盟団体数　森づくりを楽しむ 30 団体が加盟
- 定例会の開催：偶数月　第 2 金曜日 18:30 ～定例会の開催
  奇数月　第 2 金曜日 18:30 ～幹事会の開催
- フィールド訪問の開催
  加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で現地フィールド訪問が 2 回行われました。
- スキルアップ研修会の開催
  緑化センター講習室において開催しました。

▲フィールド訪問の様子

団体の情報

主な活動場所　名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
TEL/FAX：(052) 262-3181（事務局）
ウェブサイト：http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html
《[なごやの森づくりパートナーシップ連絡会] で検索》
■例会の予定：偶数月　第 2 金曜日 18：30 ～定例会の開催、奇数月　第 2 金曜日 18：30 ～幹事会の開催

（特非）なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。
いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。
雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、里山くらし体験　など。

平成 28 年度の活動について

毎年の活動は、雑木林・湿地・竹林の保全活動、なごや生物多様性保全活動協議会の水生植物部会（現在、水辺の生きもの部会）と東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全、猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いWSも日本野鳥の会愛知県支部、なごや生物多様性保全活動協議会と協働で実施しました湿地の調査と両生類の産卵地の保全。
活動日数　約300日／年、活動人数約4,810人

団体の情報

主な活動場所　なごや東山の森

（特非）なごや東山の森づくりの会
TEL/FAX：(052) 781-2595　　E-mail：takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川正子）
ウェブサイト：http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/

■例会の予定
【定例森づくり】活動参加費：会員／無料・一般／ 200 円
活動日時：毎月第 1 日曜日、7 月～ 9 月は 9：00 ～ 12：00、10 月～ 6 月は 10：00 ～ 15：00
集合場所：毎回異なります
活動場所：奇数月／いのちの森・うるおいの森（東山公園南部）
偶数月／くらしの森（平和公園南部）

NPO法人　日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

農薬や化成肥料を使わず、生きものといっしょにお米や野菜をそだてています。
都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となるよう奮闘・努力しております。又、地域の子育てNPO、介護団体、障がい者団体、大学や行政との連携・協同で、農がもたらす様々な効果、多面的活用をさぐっています。

▲田んぼの中に入って生きものさがし

平成 28 年度の活動について

①なごや生物多様性サマースクール 2 回
②夏休み小学生向け生きもの・野菜教室 2 回
③ハウス食品「食と農と環境の体験教室」5 回
④生きもの観察コース（子ども生きもの調査隊）7 回
⑤農業体験農園（指導付き農園）毎週土曜日（講義と実践）
⑥有機野菜の販売
（個人向けセット販売月 2 回、朝市月 1 回、随時イベント出店）
⑦マンション住民向け農体験講座 4 回
⑧就労支援のための職場体験受け入れ
⑨ダンボール生ゴミコンポスト講習会
⑩その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど随時開催。

▲畑でいろいろな作物の姿を知る

団体の情報

主な活動場所　日進市本郷

NPO 法人　日進野菜塾
TEL：090-5443-1518　　FAX：(052) 934-7207　　E-mail：info@n-yasaijuku.com
ウェブサイト：http://n-yasaijuku.com/

■例会の予定：日曜日 9：00 ～ 12：00

日本カメ自然誌研究会

▲なごや生物多様性サマースクール 2016 の様子

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998 年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然(野生)のカメと人とが良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

平成 28 年度の活動について

- なごや生物多様性保全活動協議会の動物調査と保全対策部会の一員として、春から秋まで市内でカメの生態調査と外来ガメの駆除を行ないました。
- 7 月 27 日には、なごや生物多様性保全活動協議会主催の「なごや生物多様性サマースクール 2016」の「カメのすむ身近な水辺を観察しよう！」で、植田川でのカメや魚の採集の指導や室内での学習に協力しました。
- 7 月 28 日には、なごや生物多様性保全活動協議会のメンバーでもある山崎川グリーンマップさんが主催された生き物観察会で、山崎川での水生動物の採集や学習に協力しました。
- 3 月 18 日～19 日にいしかわ動物園で「第 18 回日本カメ会議」を開催しました。山崎川グリーンマップさんにも協力していただきました。
- 他地域ではありますが、安城市本證寺の堀において 5 月～10 月の初旬にカメなどの水生動物の生態調査と外来種駆除を、延べ 24 日行なっています。

団体の情報

主な活動場所　その都度検討

日本カメ自然誌研究会
住所：〒471-8532　豊田市大池町汐取 1　愛知学泉大学矢部研究室内（事務局）
TEL/FAX：(0565) 35-8373　　E-mail：kame@gakusen.ac.jp
ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/chelonian-1998/
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本野鳥の会愛知県支部

▲探鳥会の様子

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は 1934 年（昭和 9 年）に創設され、全国に 90 の支部があります。愛知県支部は本部創設の 4 年後 1938 年に中京支部として誕生し今年で 79 年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会は一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はＨＰ又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

平成 28 年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動
　探鳥会：年間 140 回以上　参加者はおよそ 2600 名
　愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い
2) 保護・調査研究活動
　愛知県定点調査（県内 22 箇所で 40 年以上継続中）、カワウ調査　8 箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江　インターチェンジ）、コアジサシ調査　県内全域、木曽岬干拓地猛禽類調査

団体の情報

主な活動場所　各地

日本野鳥の会愛知県支部
住所：〒462-0844　名古屋市北区清水五丁目 10-8　グリーンフェロー 3A（日本野鳥の会愛知県支部事務所）
TEL/FAX：(052) 912-9531　　E-mail：front@wbsj-aichi.org　　ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org
■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002 年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内 23 か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

平成 28 年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。
【定期活動】
・春の種まき（3 月末から 4 月）マリーゴールドなど。ポット移植（5 月）
・初夏の花苗植え込み（6 月）街路樹植えマス・公園花壇など
・秋の種まき（9 月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10 月）
・秋冬の花苗植え込み（11・12 月）
【年間を通しての活動】
各部会担当街路樹植え・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり。
【イベントなどの参加】
あいち都市緑化フェア・みどりっ子体験フェスタ・身近な自然体験会・緑区クリーンキャンペーン・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査 2016・緑区区民まつり・ボランティアフェスティバル in みどり・みどサポフェスティバル・みどり多文化交流会・親子竹林整備体験・大高緑地冬あそび・大高緑地春のフェスタ・ビートルベットを作って遊ぼう

▲親子竹林整備体験

▲ビートルベットを作って遊ぼう

団体の情報

主な活動場所　こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上ノ山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるぱーく・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

花水緑の会
TEL：(052)625-3878　FAX：(052)623-8191（緑区役所地域力推進室）　E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp
■例会の予定：不定期

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

平成 28 年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動
公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動
防災訓練他、年に数回あり。

▲隼人池の生きものを観察する子どもたち

▲防災訓練の炊き出し

団体の情報

主な活動場所　隼人池公園

隼人池を美しくする会
TEL：090-4468-0500（携帯）（代表：加藤　昌平）

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

平成 28 年度の活動について

・主催事業
　「干潟の学校」
　「ガタレンジャー養成講座」
　「ガタレンジャー Jr.」
　環境省・名古屋市等との共催事業
・各種団体・学校等からの依頼による体感学習
・環境イベント等への出展
・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

団体の情報

主な活動場所　藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
TEL：080-5157-2002　　E-mail：info@fujimae.org
ウェブサイト：http://www.fujimae.org
■例会の予定：理事会毎月１回（不定期）・総会年１回

三河淡水生物ネットワーク

▲矢作古川分派施設工事現場
切り回し水路の水生生物調査

団体の目的・主な活動内容

2008 年 2 月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」を目的に、年 4 回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。

平成 28 年度の活動について

矢作古川分派施設建設に伴い、工事開始前の 2012 年には矢作古川の該当区域における水生生物調査、2014 年 6 月には工事区間のかいぼりで水生生物の救出と調査を行い、2015 年 10 月には、工事現場の切り回し水路において国土交通省豊橋河川事務所との共同で水生生物調査を行いました。

浅香智也・伊藤玄・鳥居亮一・川瀬基弘（2016）矢作古川分派施設に造成された仮設切り回し水路における魚類などの水生生物調査。碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報，28：23-27

また、愛知県内において、希少種・外来種の調査を行っています。

団体の情報

主な活動場所　愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク
E-mail：fw-life@katch.ne.jp
ウェブサイト：http://www.geocities.jp/fw_life/

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として自然観察会と田んぼの体験講座を行い、参加者が楽しんで活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

▲自然観察会の様子

▲田んぼ代掻き体験の様子

平成 28 年度の活動について

- 名古屋市名東区猪高緑地において
  ＜毎月第2土曜日9:30～＞
  定例自然観察会を開催しました。
  年間参加者数180名
- 猪高緑地内に復元された棚田において
  ＜5月から11月まで＞
  田んぼ体験教室を開催しました。
  年間参加者数　前期223名　後期148名　年間371名
- H29年度から田んぼの教室、田んぼの体験は、環境の変化により継続は不可能と判断しました。15年に渡り体験講座を行ってきましたが、今後は、里山のパーツとして自然の観察会のみを行っていきますので、今後ともよろしくお願いします。

団体の情報

名東自然観察会　主な活動場所　観察会／名古屋市名東区猪高緑地内
TEL/FAX：(052) 704-1196　　E-mail：hori-tamori@nifty.com
ウェブサイト：http://homepage3.nifty.com/horitamori/ 《[名東自然観察会] で検索》
■例会の予定：活動日／毎月第 2 土曜日 9：30 ～、名東生涯学習センター前集合

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

名東区内の豊かな自然を後世に引き継ぐための活動を目的としています。上記目的の為の活動を 8 つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

▲シダレザクラ

①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林整備や里山風景の復元の為の保全活動を行っています。
②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
④自然観察グループ…自然の多様性など観察をとおして、里や緑地の案内をしています。
⑤総合学習グループ…近隣の小中学校の総合的な学習の時間で環境学習を行っています。
⑥猪高の森のネイチャー研究会…ネイチャーゲームや野外体験プログラムで猪高の自然に触れて貰います。
⑦竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
⑧調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

平成 28 年度の活動について

○通常活動以外の活動
「春の環境デーなごや」参加、「猪高の森で自然探検 ～水辺の生き物探検隊だ～」主催、「名東エコフェスタ 2016」参加、「環境デーなごや」参加、「なごや生物多様性センターまつり」参加、「ふれあい生涯学習まつり」参加、「猪高緑地竹刈り体験会」主催、「植田川　秋のコリンピック」参加
○なごや環境大学　共育講座　企画運営
里山の恵み　竹炭グッズを作ろう、親子で竹クラフト、星形リースを作ろう、ミニ門松を作ろう、竹の炭焼き体験、大人の竹クラフト教室

団体の情報

主な活動場所　猪高緑地（名東区）

名東自然観察会
TEL：090-2618-3628　FAX：(052) 703-0730　　E-mail：k-takagi@zd6.so-net.ne.jp
ウェブサイト：http://sizen.ciao.jp/
■例会の予定：全体活動日　毎月第 1 土曜日 9:30 ～ 12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います。

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

平成 28 年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のカマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）などにも参加してきました。

2016年からは苗木小屋を作り、城山八幡宮をはじめ、地域の希少種の苗木育成に力を入れています。

団体の情報

主な活動場所　城山八幡宮

もりづくり会議
E-mail：morikaigi66@gmail.com
■例会の予定：月１回、定例会議と定例活動

守山リス研究会

▲なごや環境大学共育講座でリス捕獲時の体重計測

団体の目的・主な活動内容

1990 年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全を目指し（動物たちの都市計画づくり）、名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていく「二つのまちづくり」を統一していく活動を目指しています。宝には地域の歴史、文化を含めた保全を住民、学校、農家、関係団体と協同で実施しています。

(1) 生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・保全。
(2) そのために名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていくまちづくりを進めるため「東谷山の集い」を尾張戸神社、尾張野鳥の会、19 日会、えこどもと定期開催。
(3) 地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して関係者に報告しています。
(4) メガソーラー基地建設のための森伐採とまちづくりの視点からみた提案などを実施。

平成 28 年度の活動について

(1) 複数の自動撮影装置を１年中森に設置して動物のフン調査・テレメ調査の組み合わせで、繁殖・棲み分け行動を調査（ニホンリス、ムササビ、ニホンイタチ、ニホンキツネ、ニホンテン、ニホンカモシカ、アカネズミ、イノシシ、カイネコ、カイイヌなど）
(2) なごや環境大学共育講座、環境デーなごや、東海シニア大学講座、生涯教育センター講座、緑化フェアー出展、ファーストキフ協働活動、名古屋市科学館・イオンモゾ活動こども団体へのリース・ワークショップ活動やリス捕獲・テレメ調査紹介
(3) 地域との連携として農家と獣害調査対策（イノシシ、アライグマ、ハクビシン、キツネ）の実施、神社との連携で参道改修、植樹、建設したバイオトイレ毎日掃除、雨水 4ｔ貯水・浄水化、ロケットストーブ研修と設置により地域の災害避難地としての整備を実施。
(4) 調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育として市内小中学校の総合学習支援・トワイライトスクール支援などや、大学生ボランテイア単位取得のため半年間インターン研修指導や、卒論テーマ調査のための名城大の学生さん１年間支援と協働活動などを受け入れてボランテイア研修・環境教育・卒論支援教育を実施しています。

団体の情報

主な活動場所　東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園　岐阜金華山　軽井沢　嬬恋

守山リス研究会
TEL/FAX：（052）795-2616　　E-mail：risuken@kzc.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www.asahi-net.or.jp/~fb4m-iszk/risuken、http://risuken.sakura.ne.jp/（当面両方維持）
■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9：30 ～ 13：30
なごや環境大学共育講座＋リス捕獲調査：第３土曜日 9：30 ～ 14：00（第４土曜日は講座のみ）

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

平成 28 年度の活動について

- 「庄内川へアユを呼び戻そう！」イベント（5 月）
- 「矢田川で魚を捕ろう」イベント（5 月）
- 第 6 回ホタル観賞会（6 月）
- 庄内川河口二枚貝調査（7 月）
- 第 6 回庄内川水系天然アユ友釣り大会（9 月）
- 庄内川祭り第 42 回魚釣り大会（11 月）
- 天然アユ遡上調査（4 月～ 11 月）
- 志段味ビオトープ竹林整備とカワラナデシコの栽培（4 月～）
- 矢田川魚道の生き物調査・環境整備活動（4 月～ 10 月）
- 庄内川水系に生息する魚類標本作成（4 月～）

その他
- 名古屋市委託の庄内川・矢田川・才井戸流の水質検査
- NPO 土岐川・庄内川サポートセンターとの協働
- 土岐川・庄内川流域ネットワークとの協働

団体の情報

主な活動場所　庄内川水系―庄内川・矢田川

矢田・庄内川をきれいにする会
TEL：(052) 794-3876　　FAX：(052) 796-2344　　E-mail：yadashounai@gmail.com
ウェブサイト：http://www.yadashounai.org/
■例会の予定：4 月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

▲夏休み山崎川生き物観察会

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川の在来種の保護活動と、生き物がいることの大切さを地域の幅広い年代に理解していただくこと。川の生態系を大切に思う次世代を育てることも大きな目的の一つです。

平成 28 年度の活動について

①浮き島型カメ罠を使った外来種カメ捕獲

4 月初旬～ 6 月初旬のほぼ 2 カ月間、山下橋下流に、浮島型カメ罠を設置。外来種であるミシシッピアカミミガメの捕獲数は年々減少しています。ミシシッピアカミミガメの生息密度が低くなっているためでしょう。今後もこの状態を維持するために、継続的な防除を続けたいと考えています。

②夏休み生き物観察会

7月 27 日毎年恒例の夏休み生き物観察会を開催しました。今年もアユを捕獲しました。午後は、豊岡コミュニティセンター会議室で、アウトドアタレントの鉄崎幹人氏、カメの矢部先生、名城大学の谷口義則先生を講師にお迎えして、生きもの勉強会を開催しました。

③地曳き網を使ったコイの防除

11 月 5 日、名城大学工学部創造学科谷口研究室の協力を得て、山崎川では初めてのコイの防除を行いました。その他、なごや生物多様性センターの多大な協力も得ました。撮影のために参加してくださった山崎川鳥撮会のメンバーが、通りがかりで集まった多くの人に、コイの防除の必要性を伝えてくださいました。地域に大きな効果と影響をもたらしたイベントでした。

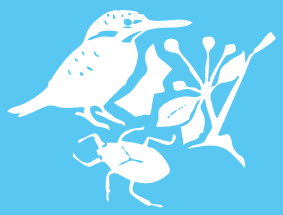
④山崎川生きもの図鑑発刊

2017 年 1 月、山崎川鳥撮会の協力を得て、1000 部作成しました。

団体の情報

主な活動場所　山崎川　瑞穂区内

山崎川グリーンマップ
TEL/FAX：（052）841-6048　　E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp
ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/
■例会の予定：未定（ウェブサイトを確認下さい）



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

平成28年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月　平成29年3月
発　　行　なごや生物多様性保全活動協議会
（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）
〒468-0066
愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地
電話　052-700-7792　　FAX　052-839-1695
ウェブサイト　http://www.bdnagoya.jp

＊この活動報告書は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。